

時代が求める新たな教養教育

京都三大学教養教育共同化事業

令和5年度 報告書



京都工芸繊維大学



京都府立大学



京都府立医科大学

目 次

ごあいさつ

京都府立大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	2
京都工芸繊維大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	3
京都府立医科大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	4

第1部 教養教育共同化の展開

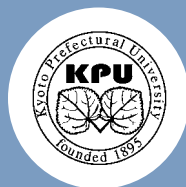
(1) 令和5年度三大学教養教育共同化の取組	5
(2) 令和5年度の教育 IR センターからの報告 ①クォーター科目の検証	12
②共同化科目担当学会議	16
③令和5年度アンケート結果	18
(3) 令和5年度のリベラルアーツセンターの活動を総括して	20

第2部 共同化科目の授業研究

(1) 歴彩館との「コラボ展」で学ぶ“英語で京都”	22
(2) 「マーケティング入門」のカリキュラムデザイン ー教養教育における「文理融合科目」としてー	24
(3) 三大学共同化科目（前期）「プレゼンテーション力とは」を担当して	30
(4) 人と自然と数学 α クォーター制実施報告	32
(5) 認知症を学ぶー超高齢社会の現状と課題ー（科目名：やさしい看護学）	34

資料編

(1) 会議の審議状況	36
(2) 京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート	37
(3) 京都三大学教養教育研究・推進機構 クォーター科目アンケート	38



京都府立大学

京都府立大学は、1895（明治28）年に開学した京都府簡易農学校に源を発する創立125年以上の歴史を有しており、人文・社会・自然科学にまたがる3学部・3研究科を備えた総合大学です。

教養教育については、平成26年度に全国で初めて京都府立医科大学及び京都工芸繊維大学との共同化を開始しました。

令和6年4月に、生命環境学部を農学食科学部、生命理工情報学部及び環境科学部の3学部（いずれも仮称）に再編し、和食文化学科の理系的教育研究要素を強化します。そして、文学部及び公共政策学部と合わせ、公立大学として数少ない文理融合型の5学部12学科を有する総合大学へとシフトチェンジします。

今後とも、教員と学生との距離が近い教育研究環境の中で、地域貢献型の教育研究の推進や産学公連携による共同研究等の強化といった多様な連携・交流活動も一層促進していきます。



学長あいさつ

京都府立大学学長
塚本 康浩



京都らしい教養教育とは何でしょうか？

新型コロナウイルス感染症が第五類感染症に分類された今、私たちは対面式、オンライン、ハイブリッド、オンデマンドの講義を組み合わせを行っています。私は2020年4月から京都府立大学の学長を務めて居ますが、「生命科学講話」の講義も引き続き担当しています。この講義には600名以上が登録しており、全講義をオンデマンド形式で提供しました。受講生の皆さんは、パソコンやスマートフォンを通じて、自宅だけでなく様々な場所で学んでいることでしょう。講義は、文字を大きくして量を控えめにし、動画を多用してわかりやすくしました。おそらく、家でリラックスしながら、あるいはペットと一緒に受講している方もいるかもしれません。教員一同は、より良い講義のために、資料作りに尽力しています。時間に縛られず、理解度が高く、極めて興味深い講義が、三大学の連携によって実現されることを期待しています。京都の三大学による共同教育プログラムでは、京都独自の文化や歴史、ユニークな企業に触れることができる講義も豊富にあります。皆さんの心に「京都」の精神が根付き、将来どこかでその知識が役立つことを楽しみにしています。みなさんそれぞれに「京都らしさ」が宿ると思います。

副学長あいさつ

京都府立大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員長
山口 美知代

本年度から推進機構運営委員長を務めております京都府立大学副学長の山口美知代です。

昨年に、京都府立大学が認証評価を受けるにあたって過去に三大学の教養教育講義を受講した学生に話を聞く機会がありました。コロナ禍前に対面で受講した学生（現在は大学院生）は、授業のなかでの他大学からの受講生との交流の機会が活発であったことを評価するコメントをしていました。一方、コロナ禍の渦中にオンラインで受講した学生（現在は3年生）は、他にどのような学生が受けているのかわかりにくく交流の機会はありませんでした。一方で、教員への授業コメント・質問と翌週教員から返ってくる回答が充実していたというコメントをくれました。

三大学教養教育の授業に限ったことではありませんが、コロナ禍は大学の講義、受講生の学びに大きな影響を与えました。対面授業が戻った今、対面授業ならではのよいところを活かした交流の活性化、またオンラインで得た教員・学生間のコミュニケーション促進の両方を備えた授業が可能になりました。推進機構としては受講生割合における交流率が気になるのですが、交流の内容をより良くすることにも大きな関心を払っていきたいと考えています。



京都工芸繊維大学

KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY、京都工芸繊維大学は、1902年に設立された京都高等工藝学校及び1899年に設立された京都蚕業講習所に端を発し、1949年に新制大学として発足しました。以来、120余年にわたり日本の産業、社会、文化に貢献する人材を輩出してきました。歴史文化都市である京都は、1200年を超える「みやこ」として、常に新しい「もの」を創出し、革新的な技術を生み出し、磨きをかけ、国内外の信用を得てきました。この創造的挑戦心を育んできた京都という場のもつ力を、工芸科学（人に優しい工学、科学の展開）の研究・教育に活かし実践する、これこそが本学のミッションであり、「京都思考（KYOTO Thinking）」と呼ぶものです。



学長あいさつ

京都工芸繊維大学学長

森迫 清貴



工科系大学である本学は、TECH LEADER（テック・リーダー）と呼ばれる社会・産業イノベーションを牽引できる能力を有する「ひと」を育てることを人材育成の目標としています。TECH LEADERは、本学の造語ですが、次の4つの工芸コンピテンシーを修得し、知識だけでなくスキル、行動も含んだ強みを有するひとのことを指します。

一つ目は言うまでもなく「工科系専門力」です。二つ目は様々な課題を解決に導くことのできる「リーダーシップ」です。これは協働する仲間の中で自己の役割を把握し、チームの目標の実現に向けて推進していく能力です。三つ目は「外国語運用能力」です。日本社会も産業もグローバル化を意識せずに活動することはできません。四つ目が「個の確立」です。個の確立は、これまで掲げていた「文化的アイデンティティ」から、より目標を明確にするために本学の議論を経て変更したものであり、「自他の文化を理解し、多様化する社会の中で揺るがない個を養成する」という意を表します。自己を認め、他者を認めて心豊かに暮らしていくには、深い思考を背景に、互いに拠って立つ文化を理解し、共有することが必要です。そのためには自己のアイデンティティとなる基盤形成が重要です。専門分野の異なる学生が集うこの場は、必ずその役に立つと思います。三大学共同で提供される教養授業科目は、「個の確立」の形成のみに役立つのではなく、他のコンピテンシーの醸成にも関係してきます。そしてTECH LEADERのベースとなる主体的・科学的

に考え行動する思考力・判断力・倫理性などを育むことに繋がるはずです。

三大学の学生の出会いは、この三大学以外の学生にはなかなか経験できない学びの機会を与えてくれたと思います。それを今後もうまく活かしていただきますようお願いいたします。

副学長あいさつ

京都工芸繊維大学理事・副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

寶珍 輝尚

本学の人材育成の目標であるTECH LEADERを育成するために、学部 of 工学教育には3つ側面があります。まず、「数学、物理、化学や基礎的な専門科目などの基盤的な工学教育」です。これは時代が変化しても不変、あるいは、人の一生を超えるようなゆっくりとした時間で変化する工学教育です。次は、「AIなど時代の波に対応する教育」で、十年二十年といった時間単位の変化にタイムリーに対応した工学教育です。3つ目は、「デザイン思考、リーダーシップや総合力を養うリベラルアーツ教育などまだ見ぬ新たな科学技術の展開に対応した工学教育」です。まだ見ぬ世界を語り構想するには、工学や技術に留まっているわけにはいきません。人や社会を知り、人と共感して次に向かうために、原動力や方法論が必要です。リベラルアーツ教育をはじめとする、まだ見ぬ世界に対応するための工学教育を今後、強力に進める必要があります。

学生が自らの専門分野を離れて、自ら問いを立て仲間とともにその解を探す営みの場として、三大学教養教育共同化事業は最適の場所です。本事業の発展と深化に微力を尽くして参りたいと思います。



京都府立医科大学

京都府立医科大学は、1872（明治5）年に粟田口青蓮院に開設された京都療病院における医学教育を始まりとする、我が国で最も古い医科大学の一つです。

本学では、歴史と実績に裏打ちされた、多様な学際的研究活動を推進し地域・社会に貢献するとともに、医学・医療技術と高い倫理観を身につけ、患者に寄り添った医療を行う優れた医療人を輩出しています。

引き続き、京都府民に開かれた公立大学として、大学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」のもと、最先端の研究を治療に活かす取組や、感染症対策・健康増進への寄与など、大学での研究成果を府民に還元すると共に、地域医療への理解と使命感を持った医療人を確保・育成するよう最大限努力いたします。



学長あいさつ

京都府立医科大学学長

夜久 均



日本の医学教育においては、6年間の教育プログラムがかなり窮屈になっています。医学・医療の進歩に伴い、学修者が学ぶべき項目が次第に増加し、また米国臨床許可を得るために米国ECFMGが求める72週の臨床実習をカリキュラムに盛り込む必要があります。従いまして、医学教育のカリキュラムが前倒しになり、いわゆる教養教育の期間がかなり短縮を余儀なくされています。一方、将来の医療を担う医師・看護師は医学・医療の知識や技術だけでなく、課題解決能力、多様性、協調性、人間力等が要求され、幅広い範囲の教養教育での学修が求められています。

そのような医学教育の状況の中で、この三大学教養教育共同化事業は、医系単科大学だけでは提供できない約80に及ぶ様々な分野の科目を自由に選択することができ、短期間であっても教養教育として、また、将来の医療者にとっては医学基盤教育として有意義かと思います。ただ、この事業も開始以来10年を経て、現時点での教育成果を評価し、必要であれば改変し、さらに有効な教育の機会にするべく見直す時期とも思います。患者さんの高齢化が進む一方、医療技術がどんどん進む中で、患者さんが安心して医療を受けていただくためにも、幅広い寛容な人間性を持つ医師、看護師が育つための一つのツールとしてこの事業が有用であることを切に望みます。

副学長あいさつ

京都府立医科大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

橋本 直哉

三大学教養教育共同化事業は、文部科学省の支援を得て平成26年度に開始された教育プログラムに端を発するものですが、平成29年度からは京都工芸繊維大学、京都府立大学及び京都府立医科大学の共同予算により運営し、少しずつ形式を整えながら、全国に先駆ける大学間連携のモデル事業として、高い評価を受けつつ展開してきたものです。

専門性の高い単科大学では、所属する学生は専門領域の殻の中に閉じこもりがちですが、本学ではこの三大学教養教育共同化事業によって、学生が三大学それぞれの特長ある講義科目を幅広く選択・受講できるだけでなく、リベラルアーツゼミナール科目の受講を通じ、専攻や学修目標の異なる様々な学生と交流できるという大きなアドヴァンテージを得ています。学生諸君には、このような機会を最大限に活用して積極的に交流し、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、大きく成長することを期待しています。

COVID-19感染症によって未曾有の危機に直面した際にも、三大学が力を合わせて課題授業や遠隔授業を組み合わせ、この学びのかたちを維持してきました。ウィズ・コロナとも言える本年度も、安全面と学習効果の両者を勘案し、機動性のある対策を怠ることなく共同化授業を展開していきたいと考えます。学生諸君の積極的な参加を期待します。

(1) 令和5年度三大学教養教育共同化の取組

(共同化教養教育等の概要)

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学による共同化授業は、平成26年4月に始められ、令和5年度に10年目に入った。

三大学での共同化教養教育は、個々には規模が小さく、各大学で提供できる科目に限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目とすることによって、学生の科目選択の幅を大きく増やし、学修意欲を高めようとするものである。

文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望が異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を持つ学生と一緒に学び交流することを通じ、豊かな人間性の形成に資することにもねらいとしている。稲盛和夫氏から多大なご寄付をいただき、平成26年に京都府立大学下鴨キャンパス内に教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が整備された。同年の後期授業からは、同施設が教養教育の拠点となり、学生間交流に大きく寄与している。

今年度も三大学で協議の上、共通のセメスター制の学年暦を定め、前期は4月10日(月)から7月31日(月)(試験日を含む)、後期は10月2日(月)から1月29日(月)(試験日を含む)とし、毎週月曜日に開講した。なお、一部科目については、試行的にクォーター制で実施した。

共同化開始当初から開講していた午後のコースに加え、平

成29年度から開始した午前のコースも引き続き6科目開講した。

また、授業は主に対面形式で実施されたが、各授業の内容や特性を考慮に入れ、一部の授業ではオンライン形式も採用された。

(令和5年度共同化カリキュラムの概要)

令和5年度は、共同化科目として79科目を開講した。提供科目数は昨年度に比べると3科目の増、共同化開始年度である平成26年度と比べると11科目の増となる。この結果、共同化開始前に比べ学生の科目選択幅は、各大学により異なるものの、2.2倍～5.1倍に大きく拡大した。

科目群別では、「人間と文化」30科目、「人間と社会」26科目、「人間と自然」23科目と、諸分野をバランスよく提供することに努めた。

共同化事業開始当初から取り組んでいる「京都学」科目は、15科目開講した。京都工芸繊維大学が2科目、京都府立大学が8科目、機構が5科目担当し、各大学の専門性を生かしつつ多様な「京都学」科目を提供した。

また、少人数で学生同士が交流し、共通のテーマで対話し議論する力を育むことをねらいとした「リベラルアーツ・ゼミナール」は、13科目開講した。考え方や学び方の基礎力を培う授業やグローバルな視野を広げる集中講義、アクティブラー

【学年暦】

■セメスター制

◎76科目

■クォーター制(試行)

◎3科目

- ・人と自然と数学α(1.2Q)
- ・科学史(1.2Q)
- ・日本近現代文学(3.4Q)

【科目構成】

■人間と文化 ◎30科目

人間と歴史、文化・芸術

■人間と社会 ◎26科目

社会科学の基礎、人間と社会

■人間と自然 ◎23科目

自然科学の基礎、人間と自然科学

文理融合施設を
活用する科目(15)
京都学(15)
リベラルアーツ・ゼミナール(13)

ニングを取り入れたゼミナールなど、多彩な内容を提供している。

学び続ける教養教育の一環で、平成27年度から取り組んでいる上回生を対象とした高度教養教育科目については6科目、語学・異文化理解科目についても7科目を開講した。

新たに5年度から「プレゼンテーション力とは」、「時事問題で学ぶファシリテーション」及び「やさしい看護学」の3科目を追加し、共同化科目の魅力拡大を図った。

また、近年の国の動向等を踏まえ、79科目のうち、15科目については、文系、理系という学問的区分にとらわれず領域横断的な知識を修得させようとする視点を踏まえた授業を展開した。

(履修登録の状況)

令和5年度前期の共同化科目は45科目で、提供大学別内訳は、京都工芸繊維大学が16科目、京都府立大学が14科目、京都府立医科大学が6科目、機構が9科目である。

学生の履修登録の状況は、別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（令和5年度前期）」のとおりである。履修登録者総数が4,947人で、大学別では、京都工芸繊維大学が2,675人、京都府立大学が1,725人、京都府立医科大学が547人である。三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は2,348人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）4,649人に占める割合は50.5%であった。

次に、後期の共同化科目は34科目で、提供大学別内訳は、京都工芸繊維大学が13科目、京都府立大学が9科目、京都府立医科大学が5科目、機構から7科目である。

学生の履修登録の状況は、別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（令和5年度後期）」のとおりである。履修登録者総数が2,899人で、大学別では、京都工芸繊維大学が1,502人、京都府立大学が1,279人、京都府立医科大学が118人である。三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は1,234人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）2,506人に占める割合は49.2%であった。

これらの結果、前期と後期を合わせた通年での履修者総数は7,846人で、前年度に比べ535人減少（-6.4%）した。

大学別では、京都工芸繊維大学が対前年度比で513人減少（-10.9%）。京都府立大学が69人増加（+2.4%）。京都府立医科大学が91人減少（-12.0%）という結果であった。

また、自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は3,582人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）7,155人に占める割合として通年で三大学学生の交流状況を示す交流率は50.1%にのぼり、昨年度に続き50%を超えた。

なお、今年度は科目定員に対する履修者数の割合である履修率は83.2%であったが、前期の登録が多く、履修率が88.9%と高い状況であるため、今後引き続き科目の開講時期の見直しを求めていく必要がある。

(履修定員調整)

教養教育共同化施設の整備に当たっては、マスプロ教育を避けるために教室規模を最大200人程度とされたこともあり、科目ごとにあらかじめ履修定員を設定の上、授業を実施することとして

いる。そのため、各科目において大学ごとに定員の配分を行い、定員を超える履修希望があった場合は抽選としている。配分に当たっては、まずは、科目定員の半数を科目提供大学が、残りの半数をその他2校で1年生の学年定員数に応じ配分することを原則としている。その上で、学生の履修希望を受け付け、科目ごとに各大学の履修希望数を集約し配分している。

なお、定員に余剰が生じた大学があった場合には、その余剰分を他の大学に再配分を行うことにより、可能な限り学生の履修希望にかなった定員配分となるように努めた。

(学生への受講ガイダンス)

共同化授業の取組について、受講する学生にわかりやすく周知を図るため、三大学共通のガイダンス冊子「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」を作成した。

冊子には、この1冊があればスムーズに共同化授業が受講できるよう、共同化の理念・目的をはじめ、共同化科目の履修方法、共同化科目一覧、前・後期ごとの各科目の履修定員、科目概要、開講時間割などを掲載した。科目概要には、科目の説明だけでなく、当該科目担当教員の授業に対する姿勢や思いを学生へのメッセージとして、授業目的区分とともに掲載した。学生へは、各大



学で実施される新入生履修ガイダンス時に配布した。

(10年目記念事業)

京都三大学の教養教育共同化は、令和5年度に10年目を迎えた。その節目を記念して、ニデック株式会社の代表取締役会長である永守重信氏をお招きした特別講義を実施した。この特別講義は、三大学教養教育共同化科目「京都の経済2023」の一部を一般の方にも公開するという形態で行った。また、通常の教室ではなく、京都学・歴彩館の大ホールを会場として使用し、学生・府民等約240人が参加した。

永守氏の講義は、夢を追求し、その実現のための具体的な行動を考えさせる講義であった。今後も、このような取組を通じて、学生に魅力的な講義を提供するとともに、京都三大学の教育活動に対する理解や支援を広げるための取組を目指していく予定である。



特別講義チラシ

令和5年度 共同化科目一覧

【授業目的区分】（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）
A. 人文・社会・自然の諸分野から、各大学の教育課程の編成方針を踏まえ学生自ら科目を選択し学ぶことにより、幅広い知識と総合的な判断力に基づく教養を培う。
B. 世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を高める。
C. 社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。また、多様な価値観を持つ人材が集まることにより新たな価値創造に向けた議論に習熟する。
【文理融合科目】（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）
文系学問と理系学問の両方を横断的に学ぶ科目、また、「文系・理系」という学問的区分にとらわれず、領域横断的な知識力と発想力を学生に習得させようとするアプローチを含む科目

科目群		文理融合科目	科目名	担当教員	開講期	授業目的区分		
						A	B	C
人間と文化（31科目）	人間と歴史		哲学	工	笠木 丈	後	○	○
			比較宗教学	工	樽田 勇樹	前	○	○
			宗教と文化	医	竹貫 友佳子	後	○	○
			日本史	工	浅井 雅	後	○	○
			東西文化交流史	工	伊藤 一馬	後	◎	○
			アジアの歴史と文化	府	井上 直樹	前	○	○
			ヨーロッパの歴史と文化	府	阿部 拓児 ほか	後	◎	○
		○	技術の人間学	工	秋富 克哉	後	○	○
			ラテン語	医	松本 加奈子	後	○	○
			西洋文化論	工	山下 太郎	後	○	○
	文化・芸術	○	日本近現代文学Ⅰ（3Q）	工	高木 彬	後（3Q）	○	○
		○	日本近現代文学Ⅱ（4Q）	工	高木 彬	後（4Q）	○	○
			西洋文学論	工	山下 大吾	前	◎	○
			美と芸術	工	松本 理悠	前	◎	○
			日本近代精神史	工	松本 直樹	前	○	○
			フランス語圏の文化とジャポニズム（※2回生以上）	工	吉川 順子	前（午前）	○	○
			映画で学ぶ英語と文化（※3回生以上）	府	吉田 朱美	後（午前）	◎	○
			映画で学ぶドイツ語と文化（※3回生以上）	府	杉山 東洋	前（午前）	◎	○
			医療人類学	医	野上 恵美	前	○	○
			認知心理学	医	村上 嵩至	前	○	○
	京都学		京都の歴史Ⅰ	府	菱田 哲郎 ほか	前	○	○
			京都の歴史Ⅱ	府	藤本 仁文 ほか	後	○	○
			京都の文学Ⅰ	府	安達 敬子	前	○	○
			京都の文学Ⅱ	府	本井 牧子	後	○	○
			京の意匠	工	下出 茉莉 ほか	後	○	○
			英語で京都（※3回生以上）	府	山口 エレノア	後（午前）	◎	○
			資料で親しむ京都学（リベラルアーツ・ゼミナール）（※2回生以上）	機	藤本 仁文 ほか	後（午前）	○	○
			京都の文化と文化財	機	宗田 好史 ほか	後	○	○
			現代イスラーム世界の文化と社会（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	田村 うらら	集中・夏	◎	○
			感性の実践哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	桑子 敏雄	集中・夏	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール		資料で親しむ京都学（リベラルアーツ・ゼミナール）（※2回生以上）（再掲）	機	藤本 仁文 ほか	後（午前）	○	○
		○	現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール）	医	瀬戸山 晃一 ほか	後	○	◎
人間と社会（26科目）	社会科学の基礎		社会学Ⅰ	府	田島 知之	前	○	○
			社会学Ⅱ	府	中谷 勇哉	後	○	○
			政治学	工	西村 真彦	後	○	○
			国際政治	府	宮脇 昇 ほか	前	◎	○
			経済学入門	工	人見 光太郎	後	◎	○
			法学	工	北村 幸也	前	○	○
			医療と社会	医	笠井 敬太	前	○	○
			生活と経済	府	小沢 修司	後	○	○
			こころの科学	工	西崎 友規子 ほか	前	○	○
			発達心理学	医	上條 史絵	集中・夏	○	○
	人間と社会		現代社会と心	府	石田 正浩	後	○	○
		○	現代社会とジェンダー	府	中根 成寿 ほか	前	○	○
			現代教育論	工	伊佐 夏実	前	○	○
			環境と法	工	須田 守	後	○	○
		○	現代医療の人間観	医	杉岡 良彦	後	○	○
			食経営学	府	平本 毅	前	○	○
			近代京都と三大学	機	宗田 好史 ほか	前	◎	○
			京の産業技術史	工	畑 智子	前	○	○
			現代京都論	府	大島 祥子	前	○	○
			京都の経済	機	小沢 修司	後	○	○
	京都学	○	現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	児玉 英明	前	○	◎
		○	社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	児玉 英明	後	◎	○
			世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	榎原 美樹	集中・夏	◎	○
		○	時事問題で学ぶファシリテーション（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	児玉 英明	後	○	◎
		○	マーケティング入門（リベラルアーツ・ゼミナール）（※2回生以上）	機	児玉 英明	前	◎	○
			プレゼンテーション力とは（リベラルアーツ・ゼミナール）	機	榎原 美樹	前	○	○

科 目 群		文理融 合科目	科 目 名	担当教員	開講期	授業目的区分			
						A	B	C	
人間と自然 (25科目)	自然科学の基礎		物理学Ⅰ	府 工	安田 啓介	前	○		
			化学概論Ⅰ	工	三木 定雄	前	○		
			化学概論Ⅱ	工	石川 洋一	後	○		
			生物学概論Ⅰ	工	疋田 努	前	○		
			生物学概論Ⅱ	工	疋田 努	後	○		
	人間と自然・科学		生命科学講話	府	塚本 康浩 ほか	集中・夏	○	○	○
			人と自然と数学αⅠ(1Q)	工	峯 拓矢	前(1Q)	○	○	○
			人と自然と数学αⅡ(2Q)	工	峯 拓矢	前(2Q)	○	○	○
			人と自然と数学β	工	磯崎 泰樹	後	○		○
			生物学の人間学	医	野村 真 ほか	前	○		○
		○	科学史Ⅰ(1Q)	工	大西 琢朗	前(1Q)	○	○	○
		○	科学史Ⅱ(2Q)	工	大西 琢朗	前(2Q)	○	○	○
		○	環境問題と持続可能な社会	工	山田 悦	前	○	○	○
			食と健康の科学	府	小林 ゆき子 ほか	前	○	○	○
			キャンパスヘルス概論	工	荒井 宏司	前	○	○	○
		○	エネルギー科学	工	林 康明	前	○	○	○
		○	現代科学と倫理	府	岩崎 豪人	前	○	○	○
			医学概論	医	橋本 直哉 ほか	後	○	○	○
	京都学		やさしい看護学(※工繊大生・府大生対象)	医	毛利 貴子 ほか	集中・夏	○		
			京都の農林業	府	中村 貴子 ほか	後	○		○
			京都の防災と府民	機	田淵 敦士 ほか	後	○		○
	リベラルアーツ・ゼミナール		京都の自然(注)	府	平山貴美子 ほか	前	○		○
		○	製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	石田 昭人	前	○		○
		○	意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	松谷 茂 ほか	後	○	○	○
				レーザで測る・創る・楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	播磨 弘	前	○	○
合計82科目									
(再掲) リベラルアーツ・ゼミ ナール(13科目)	集中開講		資料で親しむ京都学(リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上)	機	藤本 仁文 ほか	後(午前)	○	○	○
		○	現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)	医	瀬戸山 晃一 ほか	後	○	○	○
		○	現代社会に学ぶ問う力・書く力 (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	児玉 英明	前		○	○
		○	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	児玉 英明	後		○	○
		○	時事問題で学ぶファシリテーション (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	児玉 英明	前		○	○
		○	マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上)	機	児玉 英明	前(午前)	○		○
			プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	榎原 美樹	前	○	○	○
			製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	石田 昭人	前	○	○	○
		○	意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	松谷 茂 ほか	後	○	○	○
		○	レーザで測る・創る・楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	播磨 弘	前	○	○	○
			現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	田村 うらら	集中・夏		○	○
			感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	桑子 敬雄	集中・夏		○	○
			世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	榎原 美樹	集中・夏		○	○
(再掲) 京 都 学 (15科目)			京都の歴史Ⅰ	府	菱田 哲郎 ほか	前	○	○	
			京都の歴史Ⅱ	府	藤本 仁文 ほか	後	○	○	
			京都の文学Ⅰ	府	安達 敬子	前	○	○	
			京都の文学Ⅱ	府	本井 牧子	後	○	○	
			京の意匠	工	下出 茉莉 ほか	後	○	○	○
			英語で京都(※3回生以上)	府	山口 エレノア	後		○	○
			資料で親しむ京都学(リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上)	機	藤本 仁文 ほか	後(午前)	○	○	
			京都の文化と文化財	機	宗田 好史 ほか	後	○	○	
			近代京都と三大学	機	宗田 好史 ほか	前	○	○	
			京の産業技術史	工	畑 智子	前		○	○
			現代京都論	府	大島 祥子	前		○	○
			京都の経済	機	小沢 修司	後		○	○
			京都の農林業	府	中村 貴子 ほか	後	○		○
			京都の防災と府民	機	田淵 敦士 ほか	後	○		○
			京都の自然(注)	府	平山貴美子 ほか	前	○		○
(再掲) 2回生以上向け開講 (6科目)	○		フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工	吉川 順子	前(午前)	○	○	
			映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府	吉田 朱美	後(午前)		○	○
			映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府	杉山 東洋	前(午前)		○	○
			英語で京都(※3回生以上)	府	山口 エレノア	後(午前)		○	○
			資料で親しむ京都学(リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上)	機	藤本 仁文 ほか	後(午前)	○	○	
			マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上)	機	児玉 英明	前(午前)	○	○	

注：今年度開講の『京都の自然』は、内容が重複するため令和元年度まで開講の『京都の自然と森林』を履修した学生は履修することができません。
担当教員(それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。)

工：京都工芸繊維大学、府：京都府立大学、医：京都府立医科大学、機：京大三大学教養教育研究・推進機構

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2023年度前期）

	提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
					工織大	府大	医大	合計		
1	工織大	月2	フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	30	7	10	0	17	58.8%	56.7%
2	府大	月2	映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	30	6	8	0	14	42.9%	46.7%
3	機構	月2	マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	7	11	0	18	100.0%	60.0%
4	工織大	月3	美と芸術	120	59	40	20	119	50.4%	99.2%
5	工織大	月3	法学	99	27	30	5	62	56.5%	62.6%
6	工織大	月3	現代教育論	99	49	24	19	92	46.7%	92.9%
7	工織大	月3	化学概論Ⅰ	99	71	18	2	91	22.0%	91.9%
8	工織大	月3	科学史	174	147	9	0	156	5.8%	89.7%
9	工織大	月3	環境問題と持続可能な社会	99	49	33	16	98	50.0%	99.0%
10	府大	月3	京都の歴史Ⅰ	299	132	124	31	287	56.8%	96.0%
11	府大	月3	社会学Ⅰ	174	63	87	12	162	46.3%	93.1%
12	府大	月3	現代京都論	196	84	98	13	195	49.7%	99.5%
13	府大	月3	物理学Ⅰ	120	87	23	6	116	80.2%	96.7%
14	医大	月3	認知心理学	120	36	24	60	120	50.0%	100.0%
15	機構	月3	製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	14	10	5	29	100.0%	96.7%
16	工織大	月4	日本近代精神史	99	18	25	0	43	58.1%	43.4%
17	工織大	月4	京の産業技術史	120	72	25	10	107	32.7%	89.2%
18	工織大	月4	人と自然と数学α	174	153	7	2	162	5.6%	93.1%
19	工織大	月4	キャンパスヘルス概論	196	104	88	3	195	46.7%	99.5%
20	府大	月4	京都の文学Ⅰ	174	79	84	8	171	50.9%	98.3%
21	府大	月4	食と健康の科学	100	34	53	7	94	43.6%	94.0%
22	医大	月4	医療人類学	99	18	22	50	90	44.4%	90.9%
23	医大	月4	医療と社会	120	49	50	15	114	86.8%	95.0%
24	医大	月4	生物学的人間学	204	54	17	82	153	46.4%	75.0%
25	機構	月4	近代京都と三大学	99	37	49	1	87	100.0%	87.9%
26	機構	月4	プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	13	15	1	29	100.0%	96.7%
27	機構	月4	レーザで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	20	5	2	27	100.0%	90.0%
28	工織大	月5	比較宗教学	120	59	36	21	116	49.1%	96.7%
29	工織大	月5	西洋文学論	99	22	13	3	38	42.1%	38.4%
30	工織大	月5	こころの科学	174	83	61	17	161	48.4%	92.5%
31	工織大	月5	生物学概論Ⅰ	99	38	29	2	69	44.9%	69.7%
32	工織大	月5	エネルギー科学	120	111	5	0	116	4.3%	96.7%
33	府大	月5	アジアの歴史と文化	99	38	41	12	91	54.9%	91.9%
34	府大	月5	国際政治	99	17	34	4	55	38.2%	55.6%
35	府大	月5	現代社会とジェンダー	120	38	59	11	108	45.4%	90.0%
36	府大	月5	食経営学	174	96	56	8	160	65.0%	92.0%
37	府大	月5	現代科学と倫理	99	13	1	0	14	92.9%	14.1%
38	府大	月5	京都の自然	299	185	105	6	296	64.5%	99.0%
39	機構	月5	現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	10	4	9	23	100.0%	76.7%
40	府大	集中	生命科学講話	660	370	231	55	656	64.8%	99.4%
41	医大	集中	発達心理学	99	48	22	21	91	76.9%	91.9%
42	医大	集中	やさしい看護学	20	12	8	0	20	100.0%	100.0%
43	機構	集中	現代イスラム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	14	11	3	28	100.0%	93.3%
44	機構	集中	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	17	8	3	28	100.0%	93.3%
45	機構	集中	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	30	15	12	2	29	100.0%	96.7%
			合計	5,565	2,675	1,725	547	4,947	50.5%	88.9%

(注) 交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値。

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2023年度後期）

	提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
					工織大	府大	医大	合計		
1	府大	月2	映画で学ぶ英語と文化（※3回生以上）	30	23	6	0	29	79.3%	96.7%
2	府大	月3	英語で京都（※3回生以上）	30	13	0	0	13	100.0%	43.3%
3	機構	月2	資料で親しむ京都学（リベラルアーツ・ゼミナール）（※2回生以上）	20	2	8	0	10	100.0%	50.0%
4	工織大	月3	哲学	99	51	38	0	89	42.7%	89.9%
5	工織大	月3	東西文化交流史	174	101	61	10	172	41.3%	98.9%
6	工織大	月3	日本近現代文学	174	91	68	0	159	42.8%	91.4%
7	工織大	月3	政治学	99	27	28	0	55	50.9%	55.6%
8	府大	月3	京都の歴史Ⅱ	299	42	68	0	110	38.2%	36.8%
9	府大	月3	社会学Ⅱ	196	81	103	6	190	45.8%	96.9%
10	医大	月3	ラテン語	120	45	44	18	107	83.2%	89.2%
11	医大	月3	医学概論	99	14	6	10	30	66.7%	30.3%
12	機構	月3	京都の経済	120	72	41	6	119	100.0%	99.2%
13	機構	月3	時事問題で学ぶファシリテーション（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	7	10	0	17	100.0%	56.7%
14	機構	月3	意外と知らない植物の世界（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	12	12	6	30	100.0%	100.0%
15	工織大	月4	日本史	120	65	48	2	115	43.5%	95.8%
16	工織大	月4	技術の人間学	99	23	8	1	32	28.1%	32.3%
17	工織大	月4	環境と法	99	61	35	0	96	36.5%	97.0%
18	工織大	月4	人と自然と数学β	99	21	2	2	25	16.0%	25.3%
19	府大	月4	ヨーロッパの歴史と文化	174	74	96	3	173	44.5%	99.4%
20	府大	月4	京都の文学Ⅱ	99	61	34	0	95	64.2%	96.0%
21	府大	月4	現代社会と心	196	79	110	6	195	43.6%	99.5%
22	医大	月4	現代医療の人間観	99	11	11	17	39	56.4%	39.4%
23	医大	月4	現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	8	15	1	24	95.8%	80.0%
24	機構	月4	京都の防災と府民	120	55	45	7	107	100.0%	89.2%
25	工織大	月5	西洋文化論	120	37	47	3	87	57.5%	72.5%
26	工織大	月5	京の意匠	174	106	64	1	171	38.0%	98.3%
27	工織大	月5	経済学入門	99	31	13	1	45	31.1%	45.5%
28	工織大	月5	化学概論Ⅱ	99	14	0	1	15	6.7%	15.2%
29	工織大	月5	生物学概論Ⅱ	99	12	17	1	30	60.0%	30.3%
30	府大	月5	生活と経済	174	89	66	9	164	59.8%	94.3%
31	府大	月5	京都の農林業	196	87	102	4	193	47.2%	98.5%
32	医大	月5	宗教と文化	99	16	36	1	53	98.1%	53.5%
33	機構	月5	京都の文化と文化財	120	67	31	2	100	100.0%	83.3%
34	機構	月5	社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	4	6	0	10	100.0%	33.3%
			合 計	3,865	1,502	1,279	118	2,899	49.2%	75.0%

（注）交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値。

(2) 令和5年度の教育 IR センターからの報告

①クォーター科目の検証

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター長／京都工芸繊維大学 教授

磯崎 泰樹

本稿の目的について

本稿では、クォーター制（以下、Q 制と呼ぶ）で開講された3種類6科目（それぞれ1単位）に、どのように受講学生が集まったか、および、学生がQ 制の中でどのように振舞ったり、感じたりしたかを報告する。根拠となる統計数字・教員と学生の感想は、履修登録の統計・教員からの聞き取り・学生アンケートをもとにしている。統計数字は、14 ページから収録される表に示している。

科目の内容と履修形態について

本稿が述べる3種類6科目とは、第一クォーター（以下、1 Q などと呼ぶ）の人と自然と数学 α I、科学史 I、2 Q の人と自然と数学 α II、科学史 II、3 Q の日本近現代文学 I、4 Q の日本近現代文学 II である。教員は専任教員か非常勤講師かの違いはあるが、すべて京都工芸繊維大学からの提供科目であり、専門的問題意識に深入りせず、文系理系の学生が興味を共有できる話題から構成されている。学生は所属大学により、Q 制かセメスター制かのどちらかに決められており、府立大学の学生はセメスター制の科目として人と自然と数学 α 、科学史、日本近現代文学を履修するいっぽう、府立医大と京都工芸繊維大学の学生はQ 制の科目として上記6科目を履修する。

セメスター制で履修する場合の特徴について

府立大の科目である人と自然と数学 α 、科学史、日本近現代文学は、セメスター制とは言っても、同時にQ 制の実施形態と重なるため、純粋にセメスター制の科目と比べて、1 Q と2 Q を（同様に3 Q と4 Q を）一括で履修登録した場合、オンデマンド形式を含めた通常講義が15回から16回に増え、試験が1回から2回に増えている。

履修登録者数と抽選について

3教科とも定員はいずれも174名、これを100パーセントとして履修登録数を説明すると、前半のQ は四捨五入で95パーセント以上、後半のQ は83パーセント以上であった。

表1「令和5年度クォーター科目の登録状況」にある通り、府立医大の学生は6科目のうち4科目でゼロ、他の2科目で1名ないし2名だった。統計数字は収録しないが、回生による差は小さく、セメスター制・Q 制のどちらも大多数が1回生、次いで2回生が多い。

人と自然と数学 α 、科学史、日本近現代文学とも履修希望が多く、各大学に配分された枠を超えた部分につき、それぞれの大学で抽選により受講が決定された。

配分定員より希望者が少ない府立医大の学生は、抽選を経ることなく、全員が履修できたが、工織大の学生は、1 Q 2 Q のそれぞれに対し抽選が行われた。後期は方式が改定され、3 Q 4 Q 両方を希望する学生は、両方とも当選するか落選するようになった。

教員聞き取りの内容

当該6科目を担当した教員3名に、ビデオ会議またはメール会議で概況を問い合わせた。

短いクォーター期間であっても、学生はそれなりに、学びを得られたであろうと、担当教員は答えている。講義回数増加に対しては、オンデマンド形式の対応となる場合が多かったため、コロナ下の時期に作った教材が使える科目では、教材作成負担は増えていないという教員もいた。全科目で、最終レポートの採点の手間は、単純に2倍になった。

学生アンケート

Q 制の科目について、全科目のアンケートとは別に、google フォームを利用したアンケートを5科目について行った。質問項目は、「所属大学」「学年」「出席状況」「その科目の授業外学習時間」「受講した理由」「Q 制開講とセメスター制開講のどちらが良いか」である。

受講理由については、統計表にまとめられているが、クォーター賛成派と反対派に粗く分類すれば、賛成派は約3割と見積もることができる。

賛成派の中では、クォーターという短期間の勉強であることがうれしいという学生が目立った。1回生では、最終レポートを書く時期に初回講義を覚えていられるとか、終わりが見えているのでモチベーションを保ちやすいという意見が多い。3・4回生では院試の勉強・ほかの活動に差しつかえないような、短期間での1単位修得がありがたいという意見が多い。「短期間」という言葉の意味付けが、回生により異なっていた。

反対派の人数が明らかに多かった。工繊大の1・2Qについて、抽選により片方のQだけ当選する制度へのとまどいの意見が、多数あった。それらの学生は、セメスターをとおして教えている科目を、Qに分割する意味は無いと答えた。さらに、1年に50単位しか登録できない制度がある工繊大では、抽選で片方のQのみに当選した場合、落選のQに空きコマが生じ、卒業に必要な単位も奇数だけ修得する結果になり、勉学意欲が減退していた。

昨年の履修状況との比較

表3「昨年度比較（定員、登録数、交流率、履修率）」を見るとわかるように、昨年と比べて、(教室の関係などで) 定員が変化して、全6科目で

174になっている。表5「クォーター毎の登録状況」の欄（2又は4Qのみ）にあるように後半のQのみの希望者がほとんどいないので、後半のQの抽選結果に隙間が生じて、表1のとおり履修率が低下する。

表4「各大学における登録者数の昨年度との比較」から読み取れることは、府立医大の学生は昨年、26名が日本近現代文学を希望したのに、今年はゼロになった。この大差は、今のところ説明できていない。

表3の交流率を見ると、科学史Ⅰと人と自然と数学aではもともと低かった交流率が、さらに下がった。これは、府立大の学生が半減したことに伴う変化である。これら2科目は、どうしても理系的な内容を多く含むので、むしろ府立大の学生に推奨したい教養科目である。府立大の学生の減少が懸念される。

来年度に向けて

6年度から、医科大学が提供する「医学概論」が新たにQ制に移行する。学問分野が異なる科目の学生動向は前述の教科とは異なる可能性もあり、これらは貴重な指標となる。Q制の試行も2年目に入り、教員、学生の理解も進むと考えられる。

Q制についての動向をさらに分析し、皆様とともに教育の質の向上に向け、改良と発展を目指したい。

第1部 教養教育共同化の展開

(2) 令和5年度の教育 IR センターからの報告 ①クォーター科目の検証

令和5年度クォーター制実施科目に関する統計

※人と自然と数学aは、「数学a」、日本近現代文学は、「文学」と略して記載

1 令和5年度 クォーター科目の登録状況

単位：人、交流率・履修率%

科目	履修 定員	履修登録者数				交流率	履修率
		工繊大	府大	医大	合計		
科学史（1Q）	174	160	9	-	169	5.3	97.7
科学史（2Q）	174	134	9	-	143	6.3	82.8
数学α（1Q）	174	162	7	2	171	5.2	99.4
数学α（2Q）	174	144	7	1	152	5.2	88.5
文学（3Q）	174	97	68	-	165	41.2	94.8
文学（4Q）	174	84	68	-	152	44.7	87.4
計	1,044	781	168	3	952		

※府大については、クォーター制とみなした場合の数値

・3教科とも、奇数クォーター（前半クォーター）のほうが、登録者数が多い。

2 受講回生の分布

単位：人

	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生以上	計
科学史（1Q）	99	44	10	15	1	169
科学史（2Q）	88	43	7	5	-	143
計	187	87	17	20	1	312
数学α（1Q）	155	8	2	5	1	171
数学α（2Q）	142	6	2	1	1	152
計	297	14	4	6	2	323
文学（1Q）	127	18	11	8	1	165
文学（2Q）	118	18	10	6	-	152
計	245	36	21	14	1	317
3教科	729 (77%)	137 (14%)	42 (4%)	40 (4%)	4 (1%未満)	952 (100%)

・1回生が77%であった。

3 昨年度比較（定員、履修登録者数、交流率、履修率） ※5年度は1.2Q又は3.4Qの平均値

単位：人、交流率・履修率%

	年度	定員	履修登録者数	交流率	履修率
科学史	4年度	120	117	20.5	97.5
	5年度	174	156	5.8	89.7
	5-4	54	39	△14.7	△7.8
数学α	4年度	196	194	8.2	99.0
	5年度	174	162	5.6	93.1
	5-4	△22	△32	△2.6	△5.9
文学	4年度	120	119	66.4	99.2
	5年度	174	159	42.8	91.4
	5-4	54	40	△23.6	△7.8

・全科目において、交流率、履修率ともに低下した。

4 各大学における履修登録者数の昨年度との比較 ※5年度は1.2Q又は3.4Qの平均値 単位：人

	年度	工織大	府大	医大	合計	参考(定員)
科学史	4年度	93	24	0	117	120
	5年度	147	9	0	156	174
	5-4	54	△15	0	39	54
数学α	4年度	178	13	3	194	196
	5年度	153	7	2	162	174
	5-4	△25	△6	△1	△32	△22
文学	4年度	40	53	26	119	120
	5年度	91	68	0	159	174
	5-4	51	15	△26	40	54
差引計	差引計	80	△6	△27	47	86

- ・医大の登録者数は減少。文学は、26人から0人となった。
- ・全体では、47人の増となった。(定員86人の増に対し登録者47人の増。)

5 クォーター毎の履修登録者数の状況 単位：人

	1.2Q又は3.4Q	1又は3Qのみ	2又は4Qのみ	実人数
科学史	141	28	2	171
数学α	144	27	8	179
文学	152	13	-	165
計	437 (85%)	68 (13%)	10 (2%)	515 (100%)

- ・セットでとっている学生が85%であった。

6 学生アンケートの状況 (令和5年5月29日～11月24日実施、n=389)

■クォーター制の当該科目を受講した理由 (工織大、医大生のみに質問、複数回答) 単位：人

	受けた科目	短期で単位取得	集中して学修
科学史(1Q)	33	12	4
科学史(2Q)	10	2	0
数学α(1Q)	102	25	5
数学α(2Q)	70	15	9
文学(3Q)	51	14	5
計	266 (82%)	68 (21%)	23 (7%)

- ・受けた科目だからという回答が82%であった。

■クォーター制とセメスター制のどちらの開講が良いか
(府大生の場合は今後クォーター制が導入されたと仮定)

単位：人

	クォーター	セメスター	計
科学史(1Q)	22	25	47
科学史(2Q)	3	10	13
数学α(1Q)	29	92	121
数学α(2Q)	20	73	93
文学(3Q)	41	74	115
計	115 (30%)	274 (70%)	389 (100%)

- ・すべての科目において、セメスター制を選んだ学生が多かった。

(2) 令和5年度の教育 IR センターからの報告

②共同化科目担当者会議

京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員／京都府立医科大学 教授

高西 陽一

2023年9月25日午後に、令和5年度 共同化科目担当者会議が Zoom によるオンライン会議として開催された。今回のテーマは仕事や作業のサポートツールとして今話題の生成型 AI について、その基本的な特徴を学び、生成型 AI を教育現場でどのように活用できるか、3大学間で意見交換を行うことを目的とし、外部の先生から基調講演を頂くとともに教育現場で実際に生成型 AI を利用している学内の先生をお二方に報告をして頂いた。

府立医科大学副学長の橋本先生の挨拶に続いて、国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授である宇野毅明先生に、“チャット GPT の特徴をおさえる” というタイトルで基調講演を行って頂いた。先生の言葉を借りれば、ご自身は AI の超専門家というわけではないものの、データマイニングやアルゴリズム理論のご専門ということで、生成型 AI においてもかなりの知識をお持ちでありながら AI 専門家とは違った視点からのご講演であった。非常にわかりやすくチャット GPT の特徴を解説頂き、門外漢の筆者にも非常に理解しやすい内容であった。チャット GPT の特徴として、PC とのやりとりがプログラムでなく言葉でできる点、文章の成形が得意な点などが挙げられたが、個人的に最も印象的だったのは、実は滑らかにウソをつくと言う点である。文章を生成する場合、意味を持って作るのではなく文字列を作るというもので、論理的な文章を作成することは容易にできるのであるが、その内容や事象が本当に正確であるかまでは判定しないで作成している様である。従って特に日本語がもつ言葉のあいまいさとか、会話の機微、行間を読むことはまだ到底できないと感じた。また未来予測も当然難しいだろうとの見解も先生は挙げられていた。

現在色々な所で話題になっているが、先生の見立てとしては、大きなブレイクスルーがない限りはこれ以上線形的な利用の伸びはないだろうとのことで、結局は人間が如何に知恵を振り絞って効果的に利用 どうか学習させるか、が生成型 AI 利用のブレイクスルーにつながるのではないかとと思われる。

これをいかにうまく使うかと言うことに関しては、利用する人間が生成型 AI の特性、特に欠点を理解し、如何にその欠点を埋めて使うか、その工夫を人間が如何に考えて利用するかにかかっているとのことで、うまく利用することができれば、人間の会話能力はこの利用によって上がる可能性があり、コミュニケーション自体はまた別のものであるものの、人間関係の構築力の助けにはなるものと期待できそうである。

さらに先生の部署の方がチャット GPT を必ず使ってレポートを作成させる授業の例を紹介して頂いた。レポートの他に作成のプロセス、つまりどんなプロンプト（チャット GPT に対する命令や質問）を与えたか、それに際しての工夫した点、うまくいかなかった点を報告させ、また学生間で振り返って議論を行うことで、チャット GPT の正しい利用方法を学ぶいい機会になっていたようである。繰り返しになるが、結局有効な活用は人間が如何によく考えるかにかかっている点は他のツールと何も変わりはないと改めて実感した。

続いて京都工芸繊維大学の峯 拓矢先生、府立大学の中根 成寿先生の報告がそれぞれ行われた。特に印象的だったのは峯先生の数学でのチャット GPT の利用例に関する具体的な報告で、宇野先生の講演では滑らかにウソをつくと言うことが述べられていたが、チャット GPT は特に数学の問題も苦手なようで、文章作成とは毛色が異なるが、

一見するとコンピュータのより得意な分野と思われる領域でもそうした欠点が現れるというのは個人的にちょっと意外であった。

その後 30 分程度にわたり参加者からの質問を含めた意見交換が行われた。こちらも非常に活発な意見交換が行われたが、教育効果としては、学生に前向きにチャット GPT を利用させ、出てきた結果（アウトプット）ではなくその使い方（インプット）に主眼を置いて教育を行うことが重要だろうと言うのが共通の見解のように思われた。

こうして 1 時間半が終了した。個人的には会議があっという間に過ぎてしまった感覚で、それは会議の充実度によるものではないかと感じた。筆者はチャット GPT の存在は知っていたものの、ふれたことがほとんどなかったので、利用する際の注意点などが理解でき、非常に勉強になった。そしてできればもっと多くの教員に拝聴して頂くとともに、学生に講演をきいてもらうのも有意義なのではないかと強く感じた。執筆時点でも宇野先生の講演は Youtube にアップされているので、教員の方には是非一度ご覧頂ければと思う。筆者自身も今回の会議で得た知識を学生に少し流しつつ、教育に活かすシーズを得たように強く感じた。

最後になりましたが、非常に貴重なご講演を頂いた 3 先生に感謝を申し上げて報告としたいと思います（ちなみにこの文章にはチャット GPT は使用していませんのであしからず）。



宇野先生のオンライン講義の様子

(2) 令和5年度の教育 IR センターからの報告

③令和5年度アンケート結果

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター長／京都工芸繊維大学 教授

磯崎 泰樹

本稿の目的について

全ての開講科目についてのアンケートを、昨年度とおおむね同じ質問項目を用いて行った結果、履修登録のべ4947名のうち1578名から回答を得て、授業における学習成果・達成感・経験の質を問う項目において昨年度とほぼ同じ傾向を示す結果となったことと、例年低評価が続いてきた「所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた」では、平均ポイントの意味で上向きの変化の兆しが見られたことを報告する。

なお、本稿執筆時点では後期のアンケート情報が得られていないため、報告内容は前期データに基づく分析である。

質問項目の昨年度との異同について

今年度は対面授業中心で実施したので、昨年度の質問5と6の内容「授業形態、オンライン授業の有効性」を、今年度の質問6「授業形態」のみをたずねるように変更した。反対に増やした項目は質問5「授業とシラバスは一致していたか」および質問7の(15)「全体としてこの授業が満足であったか」の2点である。

昨年度と異なる項目の結果について

授業形態の質問には6割の学生が「対面授業中心」、3割が「オンライン中心」、1割が「両者が同程度」と回答した。シラバス一貫性については8割の学生が最高評価を与え、ポイント平均も3.67（最高は4.00）と高かった。全体としての満足度は5割の学生が最高評価を、4割が最高に次ぐ評価を与え、ポイント平均も4.33（最高は5.00）と高かった。

昨年度と同じ項目の結果について

質問1「所属」2「学年」3「出席状況」4「時間外学習時間」7(1)～(14)は変えておらず、回答の傾向がはっきり変化しているのは質問4「時間外学習時間」の昨年度前期である。昨年度後期と今年度は、ともに対面中心であり、回答は似ている。昨年度前期は「60分以上」が今年の2倍の人数もいて、平均学習時間が長かった。ここからは私見であるが、昨年の半数を占めたオンデマンド形式の場合は、教材動画を見る時間を短くできる一方で、見た後に調査・思考する時間が一定以上必要だった実態を「時間外学習時間」に含めて回答しているのだろう。

質問7の(11)「所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた」について

質問7でたずねる内容は授業における学習成果・達成感・経験の質であるが、授業形態がオンラインかつ非ライブだった(オンデマンド形式の)時期もあったり、正反対に対面中心の今期もあったりしたのに、昨年と今年の回答の傾向がほぼ同じなのは不思議といえば不思議である。教員も学生も、それぞれの立場で、学びの場を提供&確保するために必死で努力したのかもしれない。

私見だが明るい兆しが質問7の(11)で見られると感じている。(1)～(14)で平均ポイントがいつも最低の(11)では昨年前期の2.37、後期の2.53とくらべて、今年度前期は2.73になった。この変化が継続し、(11)以外の最低値3.37に近づいてくれることを願う。

第1部 教養教育共同化の展開

(2) 令和5年度の教育IRセンターからの報告 (3) 令和5年度アンケート結果

授業アンケート

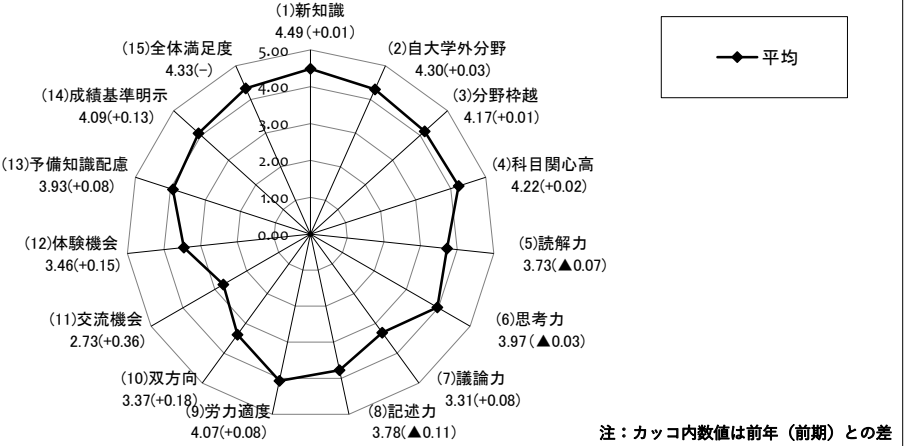
2023年度 前期

履修登録者数: 4947 名

回答者数: 1578 名

1	所属	京都市立大学			京都工芸繊維大学			その他						
		文学部	公共政策学部	生命環境学部	応用生物学課程	応用化学課程	電子システム工学課程							
		116	103	197	96	309	53							
		京都工芸繊維大学				京都府立医科大学								
		情報工学課程	機械工学課程	デザイン・建築学課程	その他	医学科	看護学科							
		141	130	273	0	64	95	1						
2	学年	1回生	2回生	3回生	4回生	その他								
		1225	243	66	36	8								
設問No	設 問 文						4	3	2	1	平均	参考4年度 (前期)	差	
3	この科目の出席状況をお答えください。 4. ほぼ全て出席した(12回以上・クォーター科目の場合は8回以上) 3. かなり出席した(9~11回・クォーター科目の場合は5~6回) 2. あまり出席しなかった(5~8回・クォーター科目の場合は3~4回) 1. ほとんど出席しなかった(4回以下・クォーター科目の場合は2回以下)						1332	190	39	17	3.80	3.87	▲ 0.07	
4	この科目の授業時間外学習(予習、復習、情報収集、レポート作成等)をどの程度実行していますか。 1回あたりの平均時間をお答えください。 4. 120分以上 3. 60分以上 2. 30分以上 1. 30分未満						181	293	514	590	2.04	2.33	▲ 0.29	
5	授業とシラバス(授業計画)は一致していましたか。 4. シラバスの内容がよく理解でき、授業内容と一致していた。 3. シラバスの内容は理解できたが、授業内容とあまり一致していなかった。 2. シラバスの内容があまり理解できず、参考にならなかった。 1. 読んでいない。						1321	113	29	115	3.67	-	-	
6	この科目の授業形態をお答えください。 3. 対面授業中心 2. オンライン授業中心 1. 対面授業とオンライン授業が同程度							992	413	173		-	-	
設問No	設 問 文						5	4	3	2	1	平均	参考4年度 (前期)	差
7	この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。						強く そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
(1)	大学に入る以前には知らなかった事柄に関する知識や理解を得た。						884	608	63	14	9	4.49	4.48	0.01
(2)	自大学では接する機会のない分野の内容を学ぶことができた。						863	455	156	81	23	4.30	4.27	0.03
(3)	分野の枠を越えた考え方や事柄のつながりを知った。						653	630	219	63	13	4.17	4.16	0.01
(4)	科目関連の分野に対する興味や関心が高まった。						703	622	176	57	20	4.22	4.20	0.02
(5)	資料や文献などの文書を調べ読解する力を養うことができた。						413	597	343	172	53	3.73	3.80	▲ 0.07
(6)	自ら思考・考察する力を養うことができた。						495	697	266	88	32	3.97	4.00	▲ 0.03
(7)	意見を述べたり議論を行ったりする力を養うことができた。						328	450	332	315	153	3.31	3.23	0.08
(8)	報告書などをまとめ、記述する力を養うことができた。						420	659	282	164	53	3.78	3.89	▲ 0.11
(9)	要求される学習時間や労力が適度であった。						582	659	235	74	28	4.07	3.99	0.08
(10)	教員との間で双方向的なやりとりがあった。						326	466	364	313	109	3.37	3.19	0.18
(11)	所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた。						267	273	222	400	416	2.73	2.37	0.36
(12)	受講者それぞれが実行・体験する内容が含まれていた。						399	475	302	256	146	3.46	3.31	0.15
(13)	受講者による予備知識の違いが配慮されていた。						509	645	270	114	40	3.93	3.85	0.08
(14)	成績評価の方法や合格の基準が明示されていた。						662	554	228	111	23	4.09	3.96	0.13
(15)	全体としてこの授業が満足であった。						775	616	128	45	14	4.33	-	-

問7 レーダーチャート



京都三大学教養教育研究・推進機構

(3) 令和5年度のリベラルアーツセンターの活動を総括して

京都三大学教養教育研究・推進機構 リベラルアーツセンター長／京都府立大学教授
岡本 隆司

ようやくコロナ禍も明けて、対面授業の復活が本格化した本年度は、それにとまなう機構の運営のみなおしと合わせて、リベラルアーツセンターも昨年度までとは、やや趣を変えた方向の活動に従事することになった。

- 1) 令和5年度のカリキュラム構成（科目）の考え方
- 2) 将来構想に向けて
- 3) 今後の展望

1) 5年度のカリキュラム構成（科目）の考え方

令和5年度は合計79の共同化科目を用意し、昨年度から若干増加をはかったことで、十分な種類と数の授業を提供できたと考えている。

全体のカリキュラムも、昨年度までの成果に準拠して、人文・社会・自然諸分野の学術を俯瞰し、その基礎を学習するとともに、世界の多様性を感じ、日常社会に生じる問題の真理を探究する議論ができるような学生を育成する考え方にもとづいて構成しており、当面は所期の目標にかなう現状である。学生の意欲も高く、履修率もそれまでと同様、80パーセントを超える高さであった。

学生のニーズ・社会の要請に応じて、科目の内容・構成に改編・洗練を加えていくことは不可避である。他方、三大学それぞれの改革やカリキュラム再編にとまなう担当人員・配当予算などの制約によって、休止・廃止を考慮せざるをえない科目が出ることも、考慮に入れておかねばならない。

ここ数年、リベラルアーツセンターでは新型コロナウイルス感染状況の推移をにらみつつ、以上の科目数の維持や担当のあり方などについては、従来の原則などを尊重しつつ、柔軟に対応してゆ

く方針を確認してきた。

しかしながらすでに言及のあるように、対面授業の本格的な復活をすすめると同時に、本年度からはじまって、各大学でまちまちだったクォーター制の施行に対応する必要もあり、既存授業の増補・運営でおおよそ精一杯だった。そのために具体的な授業科目の検討・見直しなどは、なお手の回らない状況が続いており、今後の課題となる。

コロナ禍から最初の立て直しになった本年度以降も、事務的・実務的になお困難と紆余曲折が予想される。状況の推移をにらみつつ、着実にとりくんでゆくほかはない。

ともあれ総じて困難な状況のなか、今年度も関係各位のご助力で、予定した科目を通常どおり開講できた。既定・予定の授業科目を通常どおり円滑に運営してゆくことが何より優先すべきである。その着実な履行と実績がなくては、今後の展望も開けない。

2) 将来構想に向けて

しかしながら本年度は、三大学機構発足からちょうど十年の節目を迎え、またコロナ禍からの再出発を期した年でもあった。やはり三大学共同化の理念とそれに応じたカリキュラムの全体をみわたしたうえで、今後の方針を立ててゆく必要がある。諸経費の高騰、改革やカリキュラム再編で、各大学の共同化への関わりも変化している現状もあって、共同化科目の充実とスリム化を同時にはからねばならない段階にきている。

リベラルアーツセンターはそうした役割の根幹を担う。そこで、あらためて科目のありようと理念・実態を確認しつつ、将来構想をたてる準備をすすめることになった。

実地の授業履修のなか、共同化の理念を測定で

きる指標として「交流率」がある。三大学の学生が自身とは別の専門・大学の授業をどれだけ履修したか、その割合を示した数値で、同じ場で学びを共有し、知見を交換する「共同化」を一定程度表現するとみなすことができよう。

そこで、ひとまずその数値を基準として、授業科目がどれだけ共同化理念に即しているか、サンプル的なデータを作成し、いくつかの授業の内容や反応などとあわせて検討してみた。

数回にわたって会議を開催して、委員の積極的な意見交換をおこなって、将来的な提言も得ることができた。「交流率」のみで共同化理念の達成度を測定するのは、やや一面的であること、アクティヴ・ラーニングの推奨をはかる具体的な措置・企画の考案など、今後にもけ発展させてゆくべき提案なども、そこには含まれている。

以上を記録に残し、次年度以降の継続審議としている。ゆくゆくは授業科目の存否とカリキュラム構成を再検討する具体案策定にも取り組む必要が出てくるはずで、ひきつづきデータの蓄積と意見の集約をはかりながら、そのさい即応できるように準備しておきたい。

3) 今後の展望

本年度は「ウィズコロナ」から転じて、コロナ禍の明けた一年、各大学での改革やカリキュラム再編とも重なり、やはり試行錯誤は避けられなかった。現行カリキュラムの対面授業の復活・実施は軌道に乗りつつあるが、クォーター制の実施にともなって、実務的に課題も多く、今後の推移も考え合わせた運営が欠かせない。

また理念に応じた授業の内容・編成の改善も課題であって、リベラルアーツセンターで検討をはじめた。文理融合の意識強化とあわせて、実務的

な課題と対応する形で、持続可能なカリキュラム再編が実現できるよう、次年度に引き継いでいきたい。

今年度の実施がかなわなかったのが、学生の自主的な交流事業である。例年、三大学の事業として、機構とリベラルアーツセンターが積極的にバックアップしているもので、昨年度までリベラルアーツ・ゼミナールの受講生有志を主体に、学生の側から自主的に交流活動をすすめていた経緯は、本欄でも特筆してきたところである。しかし今年度は、受講生にもセンター側にも、その具体的な企画立案の余裕はなかった。

授業の対面化も復活するなか、学生交流活動の再開も、共同化事業の理念と関わる重大な課題である。リベラルアーツセンターとしても、専門教育の前提かつ背景をなし、全人的な素養をささえるリベラルアーツの理念に即した学生育成の方策を提案する任務にたちもどり、具体的にどのような対策・企画が考えられるのか、あらためて構想していかなばなるまい。そのなかでセンターの位置づけ・役割をもみなおしてゆく必要もでてくるだろう。ひきつづき関係各位のご高見・ご支援を切に求める次第である。

(1) 歴彩館との「コラボ展」で学ぶ「英語で京都」

京都府立大学 文学部 准教授

山口 エレノア

「英語で京都」という科目は三大学共同化科目として後期に開講される科目であるが、京都府立大学の学生のためには前期の「英語で京都Ⅰ」に続く二回目の「英語で京都」の授業、いわゆる「英語で京都Ⅱ」というタイトルの授業になる。従って、まず「英語で京都Ⅰ」に参加したことのある府立大の学生にとっては二回目になり、より深い京都を知るための授業と考えればよい。一方、三大学共同化科目として受講する工繊大の学生にとっては少しレベルが高い可能性があるが、参加する学生の多くは海外から来た留学生のため、英語能力を重視した「言語」の授業というより、「京都について深く考える」という授業として注力している。学生自身の英語能力レベルにもよるが、チャレンジのある授業になる。

「英語で京都」の授業の主な目標の一つは京都府立京都学・歴彩館で開催される『府大生∞歴彩館コラボで探る京都学』（通称：コラボ展）の準備である。京都府立大学文学部欧米言語文化学科の「英語で京都」を受講する学生はこのコラボ展の一部を準備する。授業の担当教員が先ずトピックを決めて、英語でストーリーを考え作成する。そして受講生たちが英語のストーリーの日本語訳を作成する。または展示のテーマ次第、歴彩館所蔵の史料の英語訳も日本語訳もする。例えば、2023年度に行われた第6回目のコラボ展での欧米言語文化学科のトピックは京都の文人だった。『ジャポニズムの根源：欧米から見た京都の文人たち』、(英語では *Roots of Japonisme: The Literati in Kyoto - A Western Perspective*) というタイトルのものだった。これで、「英語で京都」の授業の前半のテーマは文人である。そこで授業でフィールドワークとして、京都の文人に関連する京都市内の場所を訪れた。また、教室で

文人に関するテーマを取り上げた。例えば、池大雅(1723-1776)、池玉蘭(1727-1784)という京都市生まれの有名な文人の二人の生涯について勉強し、その二人の気分になって、受講生たちは墨と筆を用意して、実際に自分たちで文字を書いたり、墨絵を描いたりしてもらった。さらに、フィールドワークでは、例えば漢詩人の石川丈山(1583～1672)の詩仙堂や松尾芭蕉(1644～1694)や与謝蕪村(1716-1784)にゆかりのある金福寺というお寺を訪れた。金福寺では、芭蕉庵や庭などを見学した。受講生たちは蕪村や芭蕉の気分になり、その場で俳句を書いてみた。日本語や英語で俳句を書く学生がいた。このように実際にトピックに関連する場所を訪れ、その雰囲気を感じ、体験した方が遥かに良かった。受講生からのコメントからもこのような体験型の授業は重要だと考えられる。



教室にて墨で遊ぶ授業（著者撮影）



金福寺にて俳句を作る（著者撮影）

コラボ展のパネル作成について一人の学生は「いつもの授業とは違う感じでみんなと話しながら作業するのが楽しかった」とコメントした。また、コラボ展の翻訳作業については別の学生は「自然な日本語訳が苦手なので不安はあるが調べるのは楽しい」とコメントし、さらに一人は「同じ英語の単語を見ても1人1人訳し方が違うというのがおもしろかった」とコメントした。

上記のコメントのように実際に体験してみるとにより楽しく勉強することができ、能力やスキルを身に付けることができたことが分かる。



2023 年度コラボ展ポスター

また、コラボ展の準備が終わると、次は学生たちが自ら深い京都のツアーを考えてもらうプロジェクトに没頭することになる。

その一例として 2023 年度の「英語で京都 II」の第 11 回目には、植物園を訪問した。これは Introducing Elements of Kyoto というプロジェクトを学生個人個人が考えるために提供した授業だった。テーマは Nature Immersion Wellness/Wellbeing Tour（最近に話題となっているウェルネスツーリズムの例）として植物園でウェルネス・ウェルビーイングを中心に考えるツアーをした。「自然と触れ合える幸せ」（ウェルビーイング）ということで、健康のために散歩し、植物の名前を確認して勉強すること、落ち葉を蹴ったりして、子供の頃を思い出すことを大切にしたい。また、喫茶店でアイスを買って、食べてリフレッシュすることやベンチに座って景色を見て楽しむことなど、様々な方法で京都市内の自然を感じて、リラックスして、メンタルヘルスのために、ウェルネスを感じさせるツアーを体験していた。これによって自分たちの Elements of Kyoto プロジェクト（京都ツアー）をより深い京都の歴史と文化を楽しめるツアーとなるように考えてもらいたいという狙いから授業を進めた。

「英語で京都」という名前なので、英語はあくまでもツールとして授業を進め、最も重要なのは本当の京都を実際に体験することである。また、コラボ展での成果や個別のプロジェクトで実際に体験した京都を発信することが重要である。学生のフィードバックから見るとより深い京都を理解して、楽しんで、思い出に残る授業になっているように思われる。

(2)「マーケティング入門」のカリキュラムデザイン ―教養教育における「文理融合科目」として―

京都三大学教養教育研究・推進機構 非常勤講師

児玉 英明

I 知識と論理的思考力の乖離

営利企業を主役とした経営学は、隣接する教養教育科目に比べて、どことなく後ろめたい存在である。その後ろめたさは、経済学者のヴェブレンが『企業の理論』で指摘したように「製作者本能をもった職人」が活躍する社会から「営利を追求する株式会社」が活躍する社会へと、経済の主体が変わるにつれて、Industry（モノ作り）がBusiness（金儲け）の後景に退いてしまった経済観から来ている。

そのような後ろめたさを感じながらも、なぜ教養教育の中に「マーケティング入門」を開講するのか。その理由は、就職活動のためのキャリア教育科目とは区別された、経営学の「考え方」を学ばせたいからである。就職対策を学ぶのではなく、経営学特有の「思考法」を学ぶことで、結果として業界研究や企業研究にも結びつくカリキュラムを提供したい。

授業アンケートには「大学に入る以前には知らなかった事柄に関する知識や理解を得た」という知識に関する設問と「自ら思考・考察する力を養うことができた」という論理的思考力に関する設問がある。「知識は身についたが、論理的思考力は身につかなかった」という学習実感は、本授業に限らず、多くの科目が直面している課題である。本授業の授業アンケートでも、知識は4.92、論理的思考力は4.58と乖離が見られる。この乖離を埋めるためにはどうすればよいか。論理的思考力を高めるためには、授業で学んだ「抽象的な」マーケティングの考え方が、日常生活で眼にする「具体的」なケースの中で「活用」できるという手応えを、学生一人ひとりに実感させることが必要である。その工夫をこらすことが「マーケティング入門」のカリキュラムデザインである。

II マーケティングで養う問題発見力

日本マーケティング大賞を受賞した「ネスレ」で、社長を務めた高岡浩三によれば、マーケティングとは「顧客の問題解決のプロセス」である¹。

そのプロセスは三段階からなる。第一段階は、自分にとっての「顧客」を明確にすることである。第二段階は、顧客が抱える問題を「発見」することである。第三段階は、問題を「解決」する方法を考えることである。高岡によれば、二番目の顧客が抱える問題を「発見」することがいちばん難しいのだという。

マーケティングとは、実際のビジネスの文脈の中で問題を発見することであり、その問題の解決策を考える際に「論理的思考力」が必要になる科目である。それに加えて、課題解決のプロセスを仲間と議論することで「創造性」を実感できる科目でもある。創造性というと、美術や音楽といった芸術科目で発揮するものと思われるが、マーケティングにも創造性を発揮する余地がある。土屋守章『ハーバード・ビジネス・スクールにて』によれば、「音楽や美術で発揮される創造性が観念の中から何かを創り出す創造性であるならば、マネジメントにおける創造性は、常に事実に基づき、そのうえで新機軸を打ち出し、問題解決を図る際に発揮される創造性である」²と述べている。また、経営学の授業で具体的なケース教材を取り上げる理由は「学生に知識を教えることを狙いとするのではなく、行動をとらなければならない問題について、理論と思考能力を実際に適用し、現実的に考えることを狙いとする」³ものだからである。課題解決の方法を教員と学生が一緒になって議論して、その過程から、問題解決を図る際に発揮される「創造性」を感じ取れば、授業も生き生きとしたものになるだろう。

Ⅲ 「具体」と「抽象」の往復運動

高校の国語の授業では、具体と抽象を「接続詞」との対応で教えることで読解力を高める。特に、「つまり」という接続詞の後には、著者の主張を抽象的にまとめた文章が来るから、強弱を付けて読み分けよといった指導である。具体と抽象の接続詞に着目して読解力を高めることが論理的思考力の第一歩である。

それでは、大学では「具体」と「抽象」をどう教えるか。その要諦は「思考する」という行為を「具体と抽象の往復運動」と定義することである。複数の具体例から、それらに共通する要素を抽出して、抽象的な言葉でまとめる過程を「概念化」という。例えば、鉛筆、消しゴム、下敷きといった具体的な三つのモノを、「概念化」すると文房具となる。概念を体系的にまとめたものが「理論」であり、「抽象」化された理論を様々な「具体的」なケースへ下ろすことで、私たちは理論を「経験として共有」することができる。

マーケティングに限らず、社会科学における論理的思考力とは、「具体」と「抽象」の間、言い換えれば「ケース」と「理論」の間を往復運動する力である。

「マーケティング入門」のカリキュラムを作成する際に注力したことは、具体的な「ケース」を常に提示することである。マーケティングの授業の分かりやすさは、具体的な「ケース」を提示することで、学生の頭の中に、「理論」と「ケース」の往復運動を作り出せるかどうかで決まる。マーケティングの理論の骨格を提示した上で、その骨格の理解を促すようなケースを併行して学ぶ。逆に「市場地位別マーケティング戦略」の単位では、先にケースを学んで、後から理論を学んだ方が分かりやすい場合もある。

Ⅳ マーケティングのカリキュラム論

「マーケティング入門」では、沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣、2001年を教科書に指定した。『わかりやすいマーケティング戦略』を選定した理由は、経営戦略論の中から「狭義の」マーケティング戦略を抽出して、マーケティングの骨格を明確にしているからである。言い換えれば、他の類書は「広義の」マーケティング戦略として、経営戦略論とマーケティングを一体的に教えているため、マーケティング理論の骨格が初学者には見えにくいという欠点がある⁴。

『わかりやすいマーケティング戦略』は二部構成で執筆されており、第Ⅰ部が「マーケティング戦略」、第Ⅱ部が「より広い戦略的視点を求めて」となっている。この第Ⅰ部が「狭義の」マーケティング戦略であり、マーケティングの骨格である。「狭義」のマーケティング戦略は次の4つの単元に内容を限定している。「第1章 マーケティングミックスー4つのP」「第2章 ターゲット市場の選定ーセグメンテーション」「第3章 プロダクト・ライフサイクルー4つの段階とマーケティングミックス」「第4章 市場地位別マーケティング戦略ーいかに他社と競争するか」。

第1章、第2章がひとつの塊で、その要諦は「マーケティングミックス」と「ターゲットセグメント」をすり合わせることである。第3章は製品ライフサイクルを導入期、成長期、成熟期、衰退期の四つの局面に分け、それぞれの局面に合った戦略定石を教える。三段階目の成熟期に入ると、業界内の順位は変わりにくいため、成熟期に関しては第3章から切り離して、第4章で市場地位別（リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー）に考えるという構成である。これが「狭義の」マーケティング戦略の骨格である。

第1回：マーケティングミックス1

(プロダクト・プロモーション・プレイス・プライス：ヴィトンの4Pとブランドの関係)

第2回：マーケティングミックス2

(プロダクト：プロダクトミックス)

第3回：マーケティングミックス3

(プロモーション：広告と広報の違い)

第4回：マーケティングミックス4

(プレイス：サプライチェーンマネジメント)

第5回：ターゲット市場の選定1

(セグメンテーションの定義・基準)

第6回：ターゲット市場の選定2

(ターゲットセグメントと4Pのフィット)

第7回：経営学ケース・スタディ1

「ネスレ日本『ネスカフェ アンバサダー』：流通経路への着目」

第8回：経営学ケース・スタディ2

「パナソニック『ポケットドルツ』：ターゲットセグメントからの波及効果」

第9回：製品ライフサイクル1

(導入期、成長期、成熟期、衰退期)

第10回：製品ライフサイクル2

(家電業界再編、日中間 M & A、構造転換連鎖)

第11回：市場地位別マーケティング戦略1

(リーダーの同質化戦略、チャレンジャーの差別化戦略)

第12回：市場地位別マーケティング戦略2

(フォロワー：FUNAI、ニッチャー：バニラヨーグルト)

第13回：経営学ケース・スタディ3

(緑茶飲料戦争『おーいお茶・伊右衛門・綾鷹』)

第14回：経営学ケース・スタディ4

(ドライビール戦争『アサヒ』と『麒麟』)

第15回：経営学ケース・スタディ5

(カフェのポジショニング：『スターバックス』『ドトール』『コメダ』『コンビニコーヒー』)

V マーケティングにおける文理融合の視座

(1) 履歴データの活用

プロモーション（販売促進）のひとつに「広告」という手段がある。例えば、テレビのコマーシャル、新聞の記事下広告、折り込みチラシなどが広告である。これらは広い範囲に商品の情報を届けることはできるが、個人の好みやニーズに合わせた情報発信することは不可能だった。

しかし、一人一台のスマホを持つことが当たり前になった現在、検索履歴や購入履歴といった個人データを活用して、個別対応の広告を発信することが可能になっている。例えば、Amazonの「閲覧履歴に基づくおすすめ商品」はその典型例である（図1）。Amazonで革靴を検索して購入したところ、図1のような「閲覧履歴に基づくおすすめ商品」が表示された。このように、個人をターゲットセグメントにした「データサイエンス」の要素がプロモーションに加わることで、マーケティングは「文系科目」から「文理融合科目」へと科目の性質が変貌している。

Amazonのようなインターネット上の無店舗小売店が台頭する一方で、街の小売店が減少しているなど、Amazonの負の側面として、新たな地域課題にも言及する必要がある。

図1 Amazon「閲覧履歴に基づくおすすめ商品」

最近閲覧した商品とおすすめ商品

閲覧履歴に基づくおすすめ商品



(2) 流通経路の変貌

インターネットが普及したいま、モノを購入する時に、必ずしも小売店に足を運ぶ必要がなくなった。「店に行かなくてもクリックひとつでモノが買える」ことは、今では当たり前だが、これは社会の分業の在り方、特にプレイス（流通経路）の在り方を変革するイノベーションである。

流通経路とは、製造業者から最終ユーザーに製品が渡るまでの経路のことである。通常の製品は「製造者」→「卸売業者」→「小売業者」→「消費者」という流通経路をたどる。しかし、店に行かなくてもモノが買えるようになると、「製造業者」と「消費者」が直接に結びつくことも可能になる。この「製造業者」と「消費者」を直接に結びつけた流通経路の改革がネスレ日本の「ネスカフェ アンバサダー」のモデルである⁵。コーヒーマシンをオフィスに無償提供することで、顧客がネスレから直接コーヒーを定期購入する仕組みである。

店に行かなくてもクリックひとつでモノが買えるようになると、Amazonの「巨大倉庫」が「卸売業者」と「小売業者」を代替し、「製造者」→「Amazonの巨大倉庫」→「消費者」といった流通経路も可能になる。ただし、このビジネスモデルは、消費者一人ひとりへ荷物を届ける宅配業者に、過度な負担がかかることが社会問題となっている。

原材料の納入業者、製造者、卸売、小売に至る、上流から下流までの縦の工程をサプライチェーンと呼ぶ。ITを駆使することで、サプライチェーンにおける工程間の調整を行い、必要なモノを、必要なときに、必要なだけ調達する「ジャストインタイム」を実現することが現代のサプライチェーンマネジメントである。ITを活用した工程間の調整にも、マーケティングが「文系科目」から「文理融合科目」へと変貌していることが見て取れる。

(3)「口コミ」という広報

広報とは「カネを払わないでテレビや新聞、雑誌などの媒体に自社の記事や製品の紹介を掲載してもらうこと」⁶である。カネを払って掲載してもらう広告とは違い、広報はカネを払わないのだから何でも掲載してもらえるわけではない。テレビ局や新聞社から見て、取り上げる価値があると思ってもらえるような広報戦略が必要である。企業とマスコミをつなぐ広報担当者には高度なコミュニケーション能力が求められている。

通常、商品の説得力は、自分自身で褒めることから生まれるのではなく、第三者であるテレビ局や新聞社が取り上げてくれることから生まれる。カネを払わずに、第三者に褒めてもらうという点では「口コミ」も広報の一種である。口コミによる製品情報の伝達は、企業と顧客間のコミュニケーションではなく、顧客間のコミュニケーションだが、広報と類似の機能をもっている。口コミによる広報の例として、Amazonのカスタマーレビュー（図2）や、化粧品をYouTubeで紹介するインフルエンサーなどが、学生にとって身近な例だろう。現代の学生は、テレビよりもスマホでの情報接触が多い。そうすると、プロモーションにとって、テレビ以上に重要なのがYouTubeやInstagramといった無料アプリである。

図2 Amazon「カスタマーレビュー」の例

5つ星のうち5.0 ★★★★★
履き心地も良く、値段も手頃で気に入っています。
投稿者 マックうまし 2016年8月5日
サイズ: 24.5 cm 色: バーガンディ
テクシーリュクスの靴は2足目です。安い革靴はビジネスではちょっと・・・と思っていましたが、出先で試し履き後、履きやすかったので購入。靴底が柔らかく、長時間歩いても疲れません。日常数キロのジョギングをしています。この靴なら走ってもいいかも！と感じさせる感触です。

(4) セグメンテーションの波及効果

セグメンテーションとは「市場を構成する人々を、何らかの共通点に着目して、同じようなニーズをもつ市場部分（セグメント）に分類すること、すなわち『マーケティングミックスに対して類似の反応を示すような同質的な市場部分に分解すること』⁷である。つまり、ターゲットセグメントとマーケティングミックス（4P：Product、Place、Promotion、Price）を常にすり合わせることで、ここで修得すべきマーケティングの思考法である。

『わかりやすいマーケティング戦略』では、1988年に発売された松任谷由実のアルバム『Delight Slight Light Kiss』の大ヒットを取り上げている。このアルバムのターゲットセグメントは、「日本」に住んでいて、「13歳から30歳」で、「純愛志向」の「女性」だった。ここでは「地域」「年齢」「志向性」「性別」という軸で、ターゲットセグメントを絞り込んでいる。しかし、『Delight Slight Light Kiss』の購入者の40%は男性だった。セグメンテーションの思考法では「13歳から30歳」の「女性」をターゲットに絞り込んだからこそ、彼女たちを取り巻く男性が動いたのであって、初めから男性もターゲットにしていたならばこれほどの成功はなかったと考える。同様に、第8回のパナソニック「ポケットドルツ」も、「オフィス」で働く「女性」のランチ後の歯磨きをターゲットセグメントにしていたが、結果として「男性」にも波及して大ヒットとなった事例である⁸。

授業では「当初はターゲットセグメントを女性に限定していたにもかかわらず、結果として男性にも波及した商品としてどのような商品が思い浮かぶか」といったアクティブラーニングを展開している。この問いは思考を抽象から具体へ導くことで、セグメンテーションを考察する発問である。

(5) ネットワーク外部性

「マーケティング入門」では「ネットワーク外部性」を第3章「製品ライフサイクル」の「導入期」の単元で扱った。その製品を持っている人が多数いることによって、その製品の価値が高まるような場合をネットワーク外部性があるという。

本授業では、ネットワーク外部性を持つ具体例として、1990年代後半のワープロソフト「Word」と「一太郎」の競争を取り上げた。当時は、Wordよりも一太郎の方が日本語変換機能に優れていた。一太郎のCMを見ると、一太郎では「入れ立てのお茶」と変換できるが、別のワープロソフトでは「入れた手のお茶」と変換されてしまうケースを取り上げていた。しかし、一太郎は日本語変換機能では優れていたにもかかわらず、世界的にWordがデファクトスタンダード（業界標準）になると、日本でもWordを使う人が増えた。日常業務におけるファイルのやりとりを考えると、みんなが使っているWordの方が確実にファイルを開くことができ、互いに編集することができるので都合がよい。つまり、製品機能が優れているからという理由とは別に、「みんなが使っているから」という理由で、Wordは一太郎に勝利した。

授業では「みんなが使っているから私も使っている『ネットワーク外部性』があるサービスとして何が思い浮かぶか」と発問している。おそらく、今の大学生にとって身近な事例はLINEやInstagramだろう。LINEやInstagramのように、ネットワーク外部性が発揮されることでその製品の価値が高まる場合、その勝ち方はライバル企業不在の「一人勝ち」になることが多い。特定のIT企業が一人勝ちするという、「インターネット時代の新たな独占とその規制をどうするか」も、文理融合の視座が求められる問いである。

Ⅵ カリキュラム改訂の核心

「インターネットがビジネスのインフラとして定着したことで、マーケティングがどう変わったか」⁹という問いが「時代が求めるマーケティングカリキュラム」を構成する際の中核となるだろう。

インターネット時代には、サービスを「無料」で提供する企業が多数ある。例えば、我々が毎日使っている Google や Gmail や YouTube は Google 社による無料サービスである。Instagram は Meta 社による無料 SNS である。LINE は LINE ヤフー株式会社による無料 SNS である。

なぜ、私たちは YouTube などのサービスを無料で使うことができるのか。まず個人サイドから見ると、Google 社は個人には無料で Google アカウントを作成する。アカウント作成後は YouTube で一人ひとりの好みに応じた動画を提供してくれる。

その一方で、Google 社は、Google や YouTube を日常的に利用している個人に向けて、商品やサービスを販売したいと考えている企業から広告料をとることで収益を上げている。つまり、Google 社は「個人を対象とした市場」と「企業を対象とした市場」の二つの市場を相手にして、その両者を結びつける「プラットフォーム」として機能している。個人には無料でサービスを提供することで利用者間にネットワーク外部性が働き、そのネットワークに組み込まれた人々の規模に、魅力を感じて引き寄せられる企業からは広告費を受け取る。

プラットフォーマーは個人には検索エンジン、動画サイト、SNSなどを無料で提供し、そこから好みや趣味などに関する膨大な個人データを集める。その個人のニーズに応じたターゲティング広告を配信することで、広告主の企業から利益を

得ている。このように二つの市場を持ち、多様な個人や企業を結びつけてビジネスを成り立たせる基盤のことを「プラットフォーム」と呼び、それを運営する企業を「プラットフォーマー」と呼ぶ。

いま、マーケティングのカリキュラムを改訂するならば、プロモーションの単元にプラットフォーマーを加筆し「なぜ、Google や LINE を無料で使うことができるのか」というアクティブラーニングを組み込む。学生は「無料の仕組み」を調べて発表し、2019 年を境に、検索連動型広告やディスプレイ広告といった「デジタル広告費」が「テレビ広告費」を逆転したことに気付くだろう。テレビを所有しない学生も増える中、その代替として使っているアプリから考察する。身近な具体例と抽象的な理論の間の往復運動を実感できるカリキュラムをつくるのが授業改善の核心である。

¹「GINZA CROSSING Talk ～時代の開拓者たち～」『日経 CNBC』2020 年 6 月 11 日。

²土屋守章『ハーバード・ビジネス・スクールにて』中公新書、1974 年、67 頁。

³同上、16 頁。

⁴「第 5 章 業界の構造分析－6 つの競争要因」「第 6 章 全社戦略－PPM の考え方」「第 7 章 事業とドメインの定義－戦略的思考の基本・出発点」の 3 つの単元を第Ⅱ部に回して、「狭義の」マーケティング戦略には織り込まないカリキュラムをとっている。初学者を対象にした場合、上記を切り離して教えるか、一体的に教えるかがマーケティングにおけるカリキュラム論の論点である。

⁵大驛潤「チャンネルによる顧客創造－ネスレ日本 ネスカフェ アンバサダー」石井淳蔵他編『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎、2016 年。

⁶沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣、2001 年、32 頁。

⁷同上、46 頁。

⁸土橋治子「セグメンテーションとターゲティング パナソニック『ポケットドルツ』：新たなセグメントの創造」青木幸弘編『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣、2015 年。

⁹沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 第 3 版』有斐閣、2023 年、207－223 頁。

(3) 三大学共同化科目(前期)「プレゼンテーション力とは」を担当して

京都三大学教養教育研究・推進機構 非常勤講師

榎原 美樹

1. 実施概要と講座の目的

これまで夏季集中講座「世界はいま」を担当してきたが、対面講義が可能になったことから、2023年は集中講座とは別に「プレゼンテーション力とは」をテーマに前期15コマを担当した。

講座の目的は、情報発信がより重要性を増している時代に、「プレゼンテーション」(以下プレゼン)を行う上で何が重要であるのか、自分が伝えたいことは一体何であるのかをまず明確に理解するとともに、誰に、どのように伝えたいのかを考え、どのようにすれば伝えたいことがよりうまく伝えられるのか、話し方や発表の仕方などの技術的な側面、そして、そもそも他人のプレゼンに対して「聴く耳」をもち、双方向のコミュニケーションを潤滑に行う力を育てる、といった、包括的な力をつけてもらうことを目指した。

講師は、2023年春まで36年間、NHKで国際報道を担当する記者としての実務を積み、ニュースのキャスターや討論番組のモデレーターなどを行い、「人に伝える」あるいは「人に伝えてもらう」にはどうすればよいのかを模索してきた。このため、学内の授業だけでなくオンライン・オフラインでの学会、さらには社会人になってからも様々な場面でプレゼンする機会が増えていくであろう学生たちに、その経験を共有し、参考にしてもらえれば幸いだと考えた。

2. まずつけてもらいたかった「褒める力」

学生たちにまず実践してもらいたいことがある、というところから講義を開始した。それは、二人一組となって相手を「バディー」(相棒)と決め、毎講義中に、バディーの“よいところ”を見つけ、それを褒めるという行為だ。プレゼンとまったく関係ないように思われるかもしれないが、私たち

は往々にして、人の欠点に目が行きがちで、褒めることよりも、批判する傾向があるのではないかと。他人の長所や秀でる点を見つけ、褒めるという行為は実は容易いことではなく、自分に自信がないと出来ない。ここで言う“褒める”は、遜ってお世辞を言うことではない。バディーである相手を意識して観察し、長所を見つける訓練を重ねることは、ひいては他人の話(プレゼン)をよく聴き、観察し、分析する力につながり、また他人から指摘される長点を自分が知り互いを高めあうことにつながる。

学生たちには、バディー制度を通じて相手を褒めることを、半年間続け、さらには日常生活でも実践してみるよう呼び掛けた。当初は予期しなかった成果を報告してくれる学生もいた。(これについては最後に付け加える。)

3. 30秒のプレゼン「食べ物に関する思い出」

講座は、多くの時間を学生自身の様々な実践に割いた。自分のプレゼンの様子をスマホで動画に収め、その動画を見て自己評価する、バディーが見て互いに評価する、そして動画を講師に送り、講義参加者や講師が評価した。

第一回の実践のテーマは「食べ物に関する思い出」。誰しも食べ物については、好物や苦い経験を通じて食べられなくなったことなど、何らかの思い出があるだろう。これを30秒という制限された時間の中で話してもらう。自分の個人的な思い出を、多数の人の前で話すという機会は初めてという学生もいたが、いずれも非常に興味深いものだった。

例えば、水槽から逃げ出したペットのエビが、スリッパに隠れていたのを知らずに踏みつぶしてしまい、しばらくエビが食べられなくなった、と

いう苦い思い出や、かつて住んでいた自宅の隣に、梅の木が生えていて、その梅の実で母親が作ってくれた梅干しの味が忘れられない、など。そうした思い出を30秒で話す自分の姿を初めて動画で見て、「声が小さい」とか「下を見たまま話している」など、今まで知らなかった自身のありように気が付いたり、また他者が自分の長所を指摘してくれたりする。その気づきを大切にしながら、プレゼン力をどうやってつけていくか、学生と講師が共同で探る過程が始まった。

4. 限られた時間は決して「短く」ない

プレゼン実践は「食べ物の思い出」の30秒スピーチから、次に内容を深めて2分に拡大してもらう。2分という時間があれば、実は人間は相当の情報量を詰めることが可能だということを感じることができる。そしてその内容を考えるにあたり、この話を誰に聞かせたいのか、どんなメッセージを伝えたいのかを意識するようにしてもらった。たとえば「一人暮らしで寂しさを感じたときに、カレーに誘ってもらったことが忘れられない」という30秒スピーチから、「食事を通して人々と交流することについて」をテーマに広げ、独自のリサーチ結果を踏まえてプレゼンをする学生など、自分が明確なメッセージを持っていれば、限られた時間も決して「短すぎる」ものではない、ということを学んでもらった。

5. 仲間との議論、質疑応答の重要性

講義では、効果的なビジュアルエイドとしてのパワーポイントの作り方や、話し方などプレゼンの質を向上させるための技術的側面についても毎回盛り込んだが、テクニカルな話はここでは割愛する。発表はその後、自分のバディをインタビ

ューして、自己紹介ならぬ他己紹介をプレゼンするなどを経て、最後は5人一組となって「豊かさを創生するための提言」をテーマに議論を重ねてもらい、10分の合同プレゼンを行ってもらった。ここで体得してもらいたかったことの一つは、仲間との議論が、自分の考えの醸成にどれだけ役に立つかということだった。参加者たちは活発な議論を楽しみ、そこから得た気づきが多かったとの感想をのちに寄せてくれていた。



グループ発表と、活発な質問の様子

また講義を通して、発表と同じぐらい聴衆側の質問が重要であると強調した結果、学生たちは発表に対して毎回積極的に挙手し、質問を投げる様子が見られた。

冒頭に触れた「褒める力」については、半年間実践したところ「看護実習の現場で患者さんの私への姿勢が激変した」と述べる学生がいたり「母との関係がよくなった」と言う学生がいたり、実践を呼びかけた講師の方が驚く成果報告があったことを記しておきたい。

(4) 人と自然と数学α クォーター制実施報告

京都工芸繊維大学 教授
峯 拓矢

1. クォーター制実施に至った背景

私は 2017 年度より、三大学教養教育共同化科目「人と自然と数学α」を担当させて頂いております。2022 年度に事務局より、本科目について 2023 年度のクォーター制での講義実施に関する問い合わせがありました。背景には、担当教員の所属大学である京都工芸繊維大学において、令和 4 年 7 月の大学戦略キャビネットで承認された「第 4 期中期目標・中期計画の達成に向けたロードマップ」([1]) 内の次の数値目標があるかと思えます。

「令和 4 年度現在、13 科目開設の学部クォーター科目に加えて、三大学教養共同化科目を含めたクォーター科目化を検討し、令和 9 年度に 100 科目を開講する。」([1]8 ページ)

一般に、セメスター制科目をクォーター制に移行する場合は、

- ・その科目で扱う内容の量
- ・前半と後半の内容の関連度の強さ（後半の内容が前半を前提にしているなら、セメスター制が良い）

などを考慮する必要があります。本科目の場合、毎回異なるトピックを扱うために比較的クォーター制実施がやり易い、という事情があったため、2023 年度にクォーター制で実施する運びとなりました。その結果起こった問題などについて、報告させて頂きたいと思えます。

2. 学生の反応

セメスター制科目をクォーター制に変更した場合、学生のメリットとしては

- ・講義内容の半分だけを知りたい場合などに、科目選択の幅が増える
- ・8 回分の内容で試験を行うので（15 回分より）

復習がやりやすい

などが挙げられます。デメリットとしては

- ・セメスター制の講義回数（15 回）と比べて、クォーター制の講義回数（8 回×2）の方が多い
- ・1Q,2Q それぞれについて試験があるため、試験を受ける回数が増える

などが挙げられるでしょうか。本科目の場合、筆記試験は実施せず、クォーター制に移行して増えた分の講義は学生の課題発表に充てたため、上記のデメリットに対してははじめから対処しておりました。

ところが、Moodle システムを利用して行ったアンケート結果によると、「クォーター制とセメスター制のどちらで開講される方が良いですか」という設問に対する回答数は次の通りでした。

	クォーター制	セメスター制
1Q	29	92
2Q	20	73

セメスター制に偏った一因には、本科目では受講者を抽選で決めている事が挙げられます。1Q,2Q の両方に受講希望を出して、1Q のみ、2Q のみ当たった学生の多くが、履修を見合わせたようです。実際、本科目の最終的な受講登録者数は 1Q171 名、2Q152 名で、おそらくは 2Q のみ当たった学生が受講を見合わせたと思われる。アンケートに書かれた不満も、受講登録の複雑さや抽選に関するものがほとんどでした。

この結果は、クォーター科目に対する受講登録システムへの改善要求として捉えるべきと考えます。2023 年度には、三大学科目を初めてクォーター制で実施したため、京都工繊大の web 受講登録システムの不備（2Q 科目が別の時間帯に登

録される) などもありました。現状での問題点として、「2Q 科目を受講登録する場合、(1Q と違って) 一回も受講しない状態で登録しなければならない」というものが挙げられます。もし、2Q の受講登録を多少遅らせられれば(可能ならば 2Q 開始の週くらい) 学生にとっては好都合ですし、前述の抽選の問題についても、1Q 受講が決まった後に 2Q の抽選を行えば避けられるかと思えます。各大学におかれましては、ご検討頂ければ幸いです。

逆にクォーター制を支持する意見としては、「2 ヶ月受講するだけで単位が取得できるから」「色々な講義を受講することができるから」などがあり、ほぼ想定通りでした。

3. 教員側の都合

セメスター制講義がクォーター制に移行した場合、教員側のデメリットとしては

- ・ 1Q を受講していないが 2Q を受講する学生がいた場合、1Q の内容を前提とした講義がしにくい
- ・ 試験の実施、採点、成績報告をそれぞれ 2 回ずつするため、手間が増える

などが挙げられます。特に、(通常の数学講義のように) 1Q で紹介した概念や公式を 2Q で使う必要がある場合にはこれらの点は顕著になるため、安易にクォーター制に移行することは控えた方がよいかと思えます。幸運なことに本科目では、毎回異なるトピックを扱っているため、1Q、2Q の内容を独立して聞くことが可能で、試験もレポート試験の形にしていたため、上記の点はさほど問題になりませんでした(成績入力の手間は多少増えましたが)。

一方、新規科目をクォーター制で開講する場合

は、教員にとっては

- ・ 8 回分の講義内容で済むので、準備し易い
- ・ 海外出張などで一時的に講義が不可能な場合も、講義期間を調整し易い

などのメリットがあります。今後、クォーター科目が一般的になれば、これらの利点はより顕著になると考えられます。

4. 今後の展望

今回は三大学セメスター科目をクォーター科目に変更した初めての試みだったため、システムの不備や教員側の対応に多少混乱があったように思います。今後、新規のクォーター科目が多数開講され、クォーター科目が一般的になれば、状況は変わると考えられます。今回の学生アンケートでも、短期間で履修できるクォーター科目を好む学生も多く見られました。講義内容の検討とともに、社会の要求を見極めて、セメスター制・クォーター制のどちらが適切かを選んでいくべきかと思えます。

参考文献：

[1] 京都工芸繊維大学「第4期中期目標・中期計画の達成に向けたロードマップ」

URL:https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/middle-period-plan/

(5) 認知症を学ぶ 一超高齢社会の現状と課題一

(科目名：やさしい看護学)

京都府立医科大学 教授

毛利 貴子

1. 授業のねらい

従来、大学コンソーシアム京都単位互換提供科目として開講してきた「やさしい看護学」ですが、2023年度より三大学教養教育共同化科目としても位置付けられることになりました。また、2023年度は高大連携事業をも兼ね、様々な大学の大学生と高校生が共に学ぶ貴重な学習の機会となりました。当科目は、ネガティブなイメージで語られることが多い老化・加齢について、成熟という側面からも学び、高齢者への理解を深めることをねらいとしています。少子高齢社会にある我が国の現状と課題、健康寿命を延ばすために重要となる生活習慣について学び、看護学という学問的視点を通して個人や集団、社会における「老い」と「ケア」を考えることを目指しました。また、地域包括支援センター職員の協力を得て、今後増加の一途をたどる認知症についての正しい知識と関わり方を学びました。

2. 講義概要～講義と演習の実際～

コンソーシアム京都6名、三大学共同科目履修生20名、高校生20名の計46名に対し、2日間の集中講義を行いました。内容は、1日目午前は「わが国における高齢社会の現状 - 加齢、老化について知ろう、考えよう -」（講義）、午後は「人生100年時代を健やかに暮らすためのセルフマネジメント」（演習）、2日目午前は「認知症について学ぶ」（講義）、午後は「認知症サポーター養成講座」（演習）としました。講義の中ではGoogle form、クイズ、ワークシートを用いて受講生の認知度、意見を引き出し、その場で共有して理解を深める工夫を行った他、高校生と大学生を同人数配置したグループワークにより、異なる世代との意見交換を行うなど、双方向のやりと

りから学びを深める方略を試みました。1日目午後の演習では、健康寿命を延ばす取り組みとして、フレイルやサルコペニアのチェックや口腔体操を行いました。2日目午後の認知症サポーター養成講座では、京都市小川地域包括支援センターより保健師、社会福祉士、介護福祉士等の専門職の方々と若年性認知症の当事者をお招きし、講義とグループワーク、質疑応答から認知症についての理解を深めました。



認知症サポーター養成講座の様子

3. 学生の反応

1日目と2日目に回収した講義後アンケートからは、それぞれの講義と演習で得た知識や体験をもとに、自身の生活や健康、家族（両親、祖父母）を見つめ直した記載が多く見られました。超高齢社会の現状を、データに基づき歴史的な変遷から理解できたこと、フレイルやサルコペニアなど、聞いたことのある言葉の医学的概念や評価・予防の視点を新たに知ったこと、未知ゆえに怖いイメージをもっていた認知症について新たな視点を得たこと、認知症をもつ人が私たちと変わらぬ毎日

を送っており、病気や関わり方を知ることによって互いに生活しやすい環境を作ることができることなどを学んだとわかりました。

基礎教養科目としての学びを得た他に、薬剤師や管理栄養士を目指すコースを専攻している学生からは、将来の専門職業人としての意識形成にも役立ったという感想が複数寄せられており、これからの超高齢多死社会を生きていく世代にとって、意義のある科目であったと評価しています。

4. 当科目の振り返り

専攻や学部、大学が異なるだけでなく、高校生と大学生という異なる発達段階や学習のレディネスをもつ受講生を対象に、しかも夏休み真最中の2日間集中講義という枠で、どのように展開すれば効果的な学びの場を提供できるのかが当初は大きな課題でした。大学教育支援課担当者、担当教員間、地域包括支援センター職員との打ち合わせを繰り返し、目標や講義内容、演習方法、押さえておきたいポイントを共有することで、受講生からは手応えのある反応を得ることができました。『「子ども叱るな来た道だもの 年寄り笑うな行く道だもの」がとても印象に残った」という学生の言葉から、私たちの人生は過去・現在・未来とつながっており、一日一日を大切に過ごすことが健康寿命の延伸につながる第一歩であることを学んでくれたのだとしたら、生命・人間・健康・環境という看護の主要概念について生涯学び続ける視点を受講生の皆さんに授けることができたのだと嬉しく思います。

令和5年度 京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿

令和5年4月

大学名	京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会							
	担当副学長		リベラルアーツセンター		教育IRセンター		規約第6条第2項による者	
	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
京都工芸繊維大学	理事・副学長	實珍 輝尚	基盤科学系 教授	野村 照夫	センター長 基盤科学系 教授	磯崎 泰樹		
京都府立医科大学	副学長	橋本 直哉	医学生命倫理学 教授（医学基盤 教育部長）	瀬戸山晃一	物質生命基礎科学 教授	高西 陽一	学生部長	武藤 倫弘
							看護学科長	吉岡さおり
京都府立大学	運営委員長 理事・副学長	山口美知代	センター長 文学部歴史学科 教授	岡本 隆司	公共政策学部 公共政策学科 准教授	秦 正樹	教務部長	長島 啓子
京都三大学教養教育研究・推進機構							京都府公立大学法人 三大学連携担当課長	吉田万里子

- (※) 参考
京都三大学教養教育研究・推進機構等の設置及び運営に関する規約
(委員会の構成) 第6条 委員会は、次に掲げる者で構成する。
(1) 三大学の担当副学長
(2) リベラルアーツセンター及び教育IRセンター（以下「両センター」という。）の全教員
2 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことができる。
(両センターの構成) 第10条 両センターは、それぞれ次に掲げる者で構成する。
(1) センター長
(2) 三大学の教員で機構の教員を兼務するもの
(3) 機構の専任教員
2 センター長が必要と認めたときは、前項に掲げる者以外の者から説明又は意見を聞くことができる。

会議の審議状況

□ 運営委員会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
令和5年 5月17日（火） 午後4時10分 ～午後5時40分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和5年度機構人事について (2) 令和4年度決算等について (3) 前期共同化科目試験日における教室使用状況について (4) 令和5年度前期教養教育共同化授業の履修登録者の状況について (5) アンケート等の実施について (6) Moodle の記載について
令和5年 7月31日（火） 午後4時10分 ～午後5時20分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 後期講義方針について (2) 令和6年度学年暦について (3) クォーター制の試行的実施について (4) 共同化科目について (5) 令和6年度共同化科目について (6) クォーター制の実施状況について (7) 令和5年度共同化科目担当者会議の開催について
令和5年 10月20日（金） 午後2時30分 ～午後3時20分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和6年度事業計画及び予算について (2) リベラルアーツセンターからの報告について (3) 三大学教養教育共同化科目の履修登録者（後期）（暫定版）について (4) 機構の科目について (5) 共同化科目担当者会議の実施結果について
令和5年 12月21日（木） 午後4時10分 ～午後4時45分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和6年度共同化科目について (2) 令和6年度の事業計画（案）及び予算（案）について (3) 令和6年度受講案内及び令和5年度報告書の作成について
令和6年 3月4日（月） 午後4時10分 ～午後5時00分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和6年度前期講義方針等について (2) 令和6年度LMS等の覚書改定（期間延長）について (3) 令和6年度受講案内について (4) 令和5年度報告書について (5) 教育IRセンターからの報告

京都三大学教養教育研究・推進機構「授業アンケート (2023)」

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんを対象者として、今後の科目のあり方や、より良い実施方法を探るために行うものです。担当教員へのフィードバックは、皆さんへの成績公表後に、行うものとしており、皆さんの成績評価には一切関係しません。また、結果の集計・分析に際しては、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

科目名	※Ⅷ以外では、それぞれ該当する番号一つを選んでください
-----	-----------------------------

I あなたの所属（以下1～13の区分）をお答えください。

京都府立大学	(1. 文学部, 2. 公共政策学部, 3. 生命環境学部)
京都工芸繊維大学	(4. 応用生物学課程, 5. 応用化学課程, 6. 電子システム工学課程 7. 情報工学課程, 8. 機械工学課程, 9. デザイン・建築学課程, 10. その他)
京都府立医科大学	(11. 医学科, 12. 看護学科)
	13. 上記以外 ()

II 学年をお答えください。

1. 1回生 2. 2回生 3. 3回生 4. 4回生 5. その他

III この科目の出席状況をお答えください。

4. ほぼ全て出席した（12回以上・クォーター科目の場合は6回以上）
3. かなり出席した（9～11回・クォーター科目の場合は5～6回）
2. あまり出席しなかった（5～8回・クォーター科目の場合は3～4回）
1. ほとんど出席しなかった（4回以下・クォーター科目の場合は2回以下）

IV この科目の授業時間外学習（予習、復習、情報収集、レポート作成等）をどの程度実行していますか。

1回あたりの平均時間でお答えください。

4. 120分以上 3. 60分以上 2. 30分以上 1. 30分未満

V 授業とシラバス（授業計画）は一致していましたか。

4. シラバスの内容がよく理解でき、授業内容と一致していた。
3. シラバスの内容は理解できたが、授業内容とあまり一致していなかった。
2. シラバスの内容があまり理解できず、参考にならなかった。
1. 読んでいない。

VI この科目の授業形態をお答えください。

1. 対面授業中心 2. オンライン授業中心 3. 対面授業とオンライン授業が同程度

VII	この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。 次の各項目について5段階で答えてください。	5	4	3	2	1
		そ強 うく 思 う	そや うや 思 う	いも どち えら なと	いう あま りな そ	思全 わく なう
	(1) 大学に入る以前には知らなかった事柄に関する知識や理解を得た	5	4	3	2	1
	(2) 自大学では接する機会のない分野の内容を学ぶことができた	5	4	3	2	1
	(3) 分野の枠を越えた考え方や事柄のつながりを知った	5	4	3	2	1
	(4) 科目関連の分野に対する興味や関心が高まった	5	4	3	2	1
	(5) 資料や文献などの文書を調べ読解する力を養うことができた	5	4	3	2	1
	(6) 自ら思考・考察する力を養うことができた	5	4	3	2	1
	(7) 意見を述べたり議論を行ったりする力を養うことができた	5	4	3	2	1
	(8) 報告書などをまとめ、記述する力を養うことができた	5	4	3	2	1
	(9) 要求される学習時間や労力が適度であった	5	4	3	2	1
	(10) 教員との間で双方向的なやりとりがあった	5	4	3	2	1
	(11) 所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた	5	4	3	2	1
	(12) 受講者それぞれが実行・体験する内容が含まれていた	5	4	3	2	1
	(13) 受講者による予備知識の違いが配慮されていた	5	4	3	2	1
	(14) 成績評価の方法や合格の基準が明示されていた	5	4	3	2	1
	(15) 全体としてこの授業が満足であった	5	4	3	2	1

VIII 自由記述欄（VIに関する追加の意見などを自由に記入してください。）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

京都三大学教養教育研究・推進機構 クォーター科目アンケート

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんを対象者として、今後の科目のあり方や、より良い実施方法を探るために行うものです。担当教員へのフィードバックは、皆さんへの成績公表後に、行うものとしており、皆さんの成績評価には一切関係しません。また、結果の集計・分析に際しては、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

1. 所属の大学、学科、課程を選んでください。	☐ 京都府立大学 文学部 ☐ 京都府立大学 公共政策学部 ☐ 京都府立大学 生命環境学部 ☐ 京都工芸繊維大学 応用生物学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 応用化学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 高分子機能工学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 物質工学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 電子システム工学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 情報工学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 機械工学課程 ☐ 京都工芸繊維大学 デザイン・建築学課程 ☐ 京都府立医科大学 医学科 ☐ 京都府立医科大学 看護学科
2. 学年をお答えください。	☐ 1 回生 ☐ 2 回生 ☐ 3 回生 ☐ 4 回生 ☐ その他
3. この科目の出席状況をお答えください。	☐ ほぼ全て出席した（6 回以上） ☐ かなり出席した（4～5 回） ☐ あまり出席しなかった（2～3 回） ☐ ほとんど出席しなかった（1 回以下）
4. この科目の授業時間外学習（予習、復習、情報収集、レポート作成等）がどの程度かについて 1 回あたりの平均時間でお答えください。	☐ 120 分以上 ☐ 60 分以上 ☐ 30 分以上 ☐ 30 分未満
5. 受講形式についてお答えください。	☐ ____（__Q）（クォーター制）を受講している（工繊大生、医大生） ☐ ____（セメスター制）を受講している（府大生）
<工繊大生、医大生のみ回答> 6. この科目を受講した理由をお答えください。（複数回答可）	☐ 受けた科目だったため ☐ 短期間で単位の取得ができるため ☐ 集中して学修できると思ったため ☐ その他
<工繊大生、医大生のみ回答> 7. この科目は、クォーター制のため 2 か月間という短期間で終わる授業となっています。クォーター制で良かったと思った事があればお書きください。（ない場合は、なしと記入してください。）	
<工繊大生、医大生のみ回答> 8. クォーター制で困ったことがあればお答えください。（ない場合は、なしと記入してください）	
9. 「クォーター制（1 コマ× 8 回及び試験）、1 単位」と「セメスター制（1 コマ× 15 回及び試験、2 単位）」のどちらで開講される方がよいと思いますか。	☐ クォーター制で開講される方がよい（府大生の場合は、今後、クォーター制が導入されたと仮定） ☐ セメスター制で開講される方がよい
10. 上記を選択した理由をお書きください。	
11. この科目の感想について自由にお書きください。	

編 集 :
発 行 :



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences

所在地 : 〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1番5
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内

T E L : 075-703-4925

F A X : 075-703-4979

U R L : <http://kyoto3univ.jp/>

発行日 : 令和 6 年 3 月

デザイン : 株式会社 谷印刷所